

## 2-3. 普天間飛行場跡地内の地権者及び跡地周辺の市民への取組み

### (1) 地権者・市民への合意形成・情報発信に関する取組みの企画・開催 (まちづくり講座の開催)

#### 1) 開催概要

##### ①目的

市民、学生、地権者、若手の会等に対して、普天間飛行場跡地利用に関する学習の機会を提供するとともに、跡地利用に対する関心を高め、合意形成活動への積極的参加を促すことを目的として、まちづくり講座を実施する。

##### ②まちづくり講座のテーマ

令和5～7年度の共通テーマ：

「周辺市街地との連携による価値の高いまちづくりのすすめ」

- ・ 今回の講座では、普天間飛行場の跡地利用全体を対象に検討するのではなく、現段階における普天間飛行場の跡地利用を見据えたまちづくりのスマールスタートとして、「周辺市街地における身近な地域まちづくり」を対象とする。
- ・ 宜野湾市総合計画から学生が興味のあるテーマをグループ毎に選択し、まちの問題・課題を把握し、関係者へのインタビューを踏まえ、課題解決策を提案・発表する。
- ・ さらに、発表会を通して、地権者、市民及び学生が、普天間飛行場跡地利用の将来像を考えるきっかけづくりとする。

##### ③実施内容

沖縄国際大学2年生の演習授業を活用し、普天間飛行場の跡地利用を見据えた周辺市街地における身近なまちづくりを考えることをテーマに、地域の関係者へのインタビューを行い、まちづくりの企画を考える。

企画提案発表会では、普天間飛行場跡地のまちづくりに向けて、各グループが考えてきたまちづくりの企画提案内容を発表する。

#### ④狙い

～地域課題に対応するまちづくりの取組み企画づくり（グループ単位での企画提案）～

##### ■宜野湾市

- ・まちづくりの人材育成
- ・普天間飛行場跡地利用への関心を高める
- ・継続してまちづくりに興味を持ってもらう

##### ■大学

- ・まちづくりを学ぶ
- ・地域住民等との交流（外部へのインタビュー等の経験取得）
- ・グループでのプロジェクト企画作成のプロセスを学ぶ

#### ⑤演習授業

- ・対象学科は地域行政学科
- ・演習の目的：専門に入る前の導入と基礎技術（調査・フィールドワーク・発表等）の習得
- ・対象クラス：2年生（3クラス[16人×3クラス=48人]  
柴田講師：行政法  
野添教授：外交史  
中川講師：行政学
- ・基礎演習Ⅱ：火曜4限（14:40～16:10）
- ・上江洲教授はオブザーバー参加
- ・1コマ90分（連絡等を除くと実質60～70分）

#### ⑥グループ分けと発表テーマ等

クラス名	テーマ	人数
柴田講師 A	● バスで広がる安心の未来	5名
柴田講師 B	● 子どもたちが安心して、心豊かに成長できるまち	5名
柴田講師 C	● イベントと若者をつなげたまちづくり	6名
野添教授 A	● 自治会加入率向上を通じた地域の活性化	6名
野添教授 B	● 国際交流によるまちの活性化	5名
野添教授 C	● 防災のまちづくり	5名
中川講師 A	● 外国人交流オンラインプラットフォーム	5名
中川講師 B	● 宜野湾市を賑わいと活力のある町にする！！	5名
中川講師 C	● バスアプリでつながる、安心・便利な宜野湾のまち	6名

#### ⑦企画提案発表会

開催日時：令和7年12月23日（火）14：00～17：20

会場：沖縄国際大学 厚生会館ホール（4階）

プログラム：学生による発表「まちづくりの企画提案」9グループ

#### ⑧発表会参加者及び受講生アンケート※企画提案発表会後実施

企画提案発表会の後、来場者及び発表した学生に対するアンケート調査を実施した。

## 2) 実施結果

### ①演習授業

日付	内容(案)	各回のアウトプット
① 10/14	○講座の趣旨、スケジュール、これまでのまちづくり講座 ○宜野湾市のまちづくりと普天間飛行場跡地利用について ○まちづくりのプロセス(問題⇒課題⇒解決策) ～検討テーマの提示～ ○グループ分けとテーマ決め	自分のグループがどの検討テーマを選択したか 選択した理由(解決したい課題)をグループ毎に発表
② 10/21	○抽出した課題から企画づくりを行う地域の設定・問題の深掘り ～「地域の問題は何か」を具体的に考える～	地域の問題の深掘り(課題の背景など)で分かったことを発表
③ 10/28	○西普天間住宅地区のまち歩き ～宜野湾市の新しいまちづくりの現場を学ぶ～	まちづくりと行政の役割を学ぶ・発表
④ 11/4	○課題に対する解決策の検討と具体例の調査 ～課題に対する具体的な解決策の方向性を考える～	企画内容(課題の設定、解決策)を発表
⑤ 11/11	○フィールドワークで明らかにしたいことの整理 ～想定した課題の実態と原因の把握、解決策の実施に向けた懸念事項を明らかにする⇒その為に「誰」に聞くか～	フィールドワーク先への質問事項等の整理した内容を発表
⑥ 11/18	○フィールドワーク先の検討と段取りの確認 ○フィールドワーク先への質問事項の整理	フィールドワーク先への質問事項等の整理した内容を発表
⑦ 12/2	○解決策の検討とプレゼンに向けたコツ ○発表準備	フィールドワークからわかったこととそれを踏まえて検討することを発表
⑧ 12/9	○発表資料の作成とプレゼン準備 ☑ 設定したテーマと課題の理由 ☑ 宜野湾市の現状や特性、問題の整理(インタビュー結果を含む)	プレゼンのパワポ資料(暫定版)を提出
⑨ 12/16	☑ まちの将来像を達成するために解決すべき課題 ☑ 課題の解決策(具体的な取組み=企画)を提案	プレゼンのパワポ資料(最終版)を提出
発表会 12/23	○企画提案発表会(@沖縄国際大学厚生会館) ・主旨説明 ・学生による発表・講評(一般公開) ・結果発表・総評	発表時のプレゼン資料
⑩ 1/6	○まちづくり講座の振り返り	

## ②企画提案発表会

- 開催日時：令和7年12月23日（火）14：00～17：20
- 会場：沖縄国際大学 厚生会館ホール（4階）
- プログラム：学生による発表「まちづくりの企画提案」9グループ
- 参加人数：約80名 ※先生、事務局除く

### ②-1. 出演者

【学生による発表「まちづくりの企画提案」】

- ・沖縄国際大学2年生

### ②-2. プログラム

【タイムテーブル】

- |             |                                   |
|-------------|-----------------------------------|
| 14:00～14:05 | 開会                                |
| 14:05～15:45 | 前半 学生による発表（5グループ）<br>「まちづくりの企画提案」 |
| 15:45～15:55 | ～休憩～                              |
| 15:55～17:15 | 後半 学生による発表（4グループ）<br>「まちづくりの企画提案」 |
| 17:15～17:25 | 結果発表                              |
| 17:25～17:35 | 総評<br>ゲスト審査員 阪井 暖子様               |
| 17:35～17:40 | 閉会（宜野湾市）                          |

②-3. チラシ

宜野湾市ホームページやSNSへの掲載による市民、地権者への周知、大学生（沖縄国際大学）、宜野湾市の職員や関係機関等へ周知を行った。

【企画提案発表会案内チラシ】

沖縄国際大学 × 宜野湾市まちづくり講座コラボ企画 2025

沖縄国際大学生が考える  
普天間飛行場の跡地利用を見据えた周辺のまちづくり

# 企画提案発表会

普天間飛行場は全面返還が合意され、跡地のまちづくりが求められています。私たち沖縄国際大学生は、普天間飛行場の跡地利用を見据え、周辺市街地における身近なまちづくりを考えることをテーマに、2か月にわたり演習授業を通じてグループでまちづくりの企画を考えてきました。未来のまちづくりに向けた企画を提案し発表します。ぜひご参加ください！

**日時** 2025年12月23日(火) 14時00分～17時20分(開場13時40分)

**会場** 沖縄国際大学 厚生会館ホール (4階)

事前申し込み不要どなたでも参加OK!

**参加費 無料**

専用の駐車場は設けておりませんので、**駐車場が満車**となるのが想定されます。ご面倒をおかけいたしますが、**公共交通機関**でのご来場をお願いいたします。ご理解賜りますようよろしくお願いいたします。

**プログラム**

- 14:00～17:05 学生による発表「まちづくりの企画提案」
- 17:05～17:15 結果発表
- 17:15～17:20 総評

**会場**

CAMPUS MAP

バス停：沖縄国際大前

主催 宜野湾市まち未来課  
問い合わせ 日本工営都市空間株式会社(寺田・内田) TEL.098-852-1960

②-4. 発表会結果

【学生による発表「まちづくりの企画提案」】

クラス名	テーマ	企画内容		人数
柴田講師 A	バスで広がる安心 の未来	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 車が増え交通渋滞に巻き込まれやすくなっている</li> <li>● 定時性の確保が難しい</li> <li>● 徒歩でバス停へ移動する、バス停の設備が不十分</li> </ul>	5名
		解決策	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コミュニティバスの運行ボランティア</li> </ul>	
柴田講師 B	子どもたちが安心して、心豊かに 成長できるまち	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子どもたちの放課後の居場所づくり</li> <li>● 情報弱者に対する情報提供の方法</li> </ul>	5名
		解決策	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 沖縄国際大学で一つのコミュニティを設ける</li> <li>● プッシュ型サービスで支援事業の認知・利用を促す</li> </ul>	
柴田講師 C	イベントと若者を つなげた まちづくり	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 特産品が少ないことで、町の魅力が十分に伝わっていない</li> <li>● 市外への若者への周知が不十分</li> <li>● 協賛金がなければ運営費を賅えない</li> </ul>	6名
		解決策	<ul style="list-style-type: none"> <li>● インスタグラムのストーリーズ活用</li> <li>● 産業まつりで学生と共同でブース出展</li> </ul>	
野添教授 A	自治会加入率向上 を通じた地域の 活性化	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自治会活動が不明</li> <li>● 自治会加入の勧誘がない</li> </ul>	6名
		解決策	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自治会活動をわかりやすくまとめた漫画</li> <li>● 自治会参加お試し制度の導入</li> <li>● 自治会アプリ化</li> </ul>	
野添教授 B	国際交流による まちの活性化	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 多文化交流を深める必要がある</li> <li>● 言語の壁や文化の違いで交流しにくい</li> <li>● パーキングエリアが少なく集客が難しい</li> </ul>	5名
		解決策	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国籍・年齢を超えて楽しむ交流ブース</li> </ul>	
野添教授 C	防災のまちづくり	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 個別避難計画の必要性</li> <li>● 避難ビル</li> <li>● 交通渋滞</li> </ul>	5名
		解決策	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 映画鑑賞</li> <li>● 防災すごろく大会</li> <li>● 防災クイズ大会</li> </ul>	
中川講師 A	外国人交流 オンライン プラットフォーム	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 対面での交流が困難</li> <li>● 国際交流イベントの周知をしているが、人が集まらない</li> <li>● 外国人は多いけど繋がりが少ない</li> </ul>	5名
		解決策	<ul style="list-style-type: none"> <li>● オンラインプラットフォーム</li> </ul>	
中川講師 B	宜野湾市を賑わい と活力のある町に する！！	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● イベントの周知が行き届いていない</li> <li>● 観光コンテンツの不足</li> </ul>	5名
		解決策	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ハッシュタグの利用</li> <li>● 学生コラボによる観光コンテンツの創出</li> </ul>	
中川講師 C	バスアプリでつな がる、安心・便利 な宜野湾のまち	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 渋滞を改善するためにバスの利用率を上げたい</li> </ul>	6名
		解決策	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高校生にチラシなどを配りバスアプリを周知させる</li> </ul>	

②-5. 総評

【ゲスト審査委員の阪井様による総評】

クラス名	テーマ	総評
柴田講師 A	バスで広がる安心 の未来	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高齢者の利用が多いという先入観があったが、実際には高齢者の利用が少ないという点は、宜野湾市における一つの課題であると感じた。</li> <li>● ボランティア活動につなげるという視点は意外性があったが、「学生のボランティアへの意識を高める」という点が興味深い内容であった。</li> <li>● 高齢者の方に実際に話を聞き、どのような支援や取組みを求めているのかを調査すると、さらに多様なアイデアが生まれた可能性があると感じた。</li> </ul>
柴田講師 B	子どもたちが安心 して、心豊かに成 長できるまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子どもの居場所づくりについて、預け先の不足という一般的な視点にとどまらず、親が必要な情報を得られていないことが利用に繋がっていない要因である点まで掘り下げて整理されており、興味深い内容であった。</li> <li>● データ分析やインタビューにおいても、一歩踏み込んだ考察がなされており、とてもよかった。</li> <li>● 沖縄国際大学での実施を想定する場合、小学生がどのような交通手段で来るかまで考えると、なおよかった。</li> </ul>
柴田講師 C	イベントと若者を つなげたまちづく り	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 実体験を踏まえた発表であり、具体性があった、とてもよかった。</li> <li>● 若者のイベント参加が少ないという点について、どのデータや根拠に基づくものかを明示すると、なおよかった。</li> <li>● 市内の若者を対象とする場合でも、「どのような内容であれば参加したいか」といったヒアリングを行うことで、企画の具体性が高まると考えられる。</li> </ul>
野添教授 A	自治会加入率向上 を通じた地域の活 性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 発表資料は文字が大きく、全体として非常に分かりやすい構成であった。</li> <li>● 自治会関係者へのインタビューは、丁寧な聞き取りを行ったことが内容から伝わってきた。</li> <li>● 提案された3つのアイデアはいずれも興味深く、特にAIを活用した漫画制作はとてもよかった。</li> <li>● 一方で、アプリや漫画について、想定する対象者（誰に届けたいのか）を明確にすると、企画意図がより伝わりやすくなったと思う。総合的に見て、完成度が高く、よくできた発表であった。</li> </ul>
野添教授 B	国際交流によるま ちの活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 提案内容は興味深く、具体性があった。</li> <li>● 誰もが知っているゲームを活用することや、言語に依存しない工夫は、とてもよかった。</li> <li>● 沖縄国際大学で実施することを前提としているが、より多様な機会を捉え、展開の幅を広げていくことも考えられる。</li> </ul>

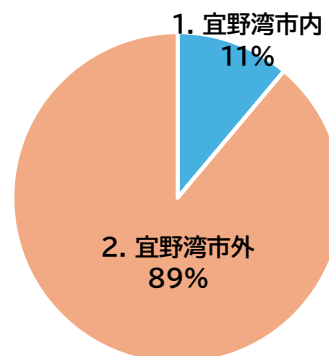
クラス名	テーマ	総評
野添教授 C	防災のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 映画鑑賞やすごろく等を活用し、楽しみながら防災意識を高める取組みは、興味深い内容であった。</li> <li>● 要支援者への直接的なアプローチは難しい面があるが、イベント等を通じた啓蒙活動は効果があると考えられる。</li> <li>● 過去の津波警報発令時の事例も調べられており、とてもよかった。</li> <li>● 防災と交通の問題は関係している部分があるため、交通の問題も一緒に考えることが出来たら、なおよかった。</li> </ul>
中川講師 A	外国人交流オンラインプラットフォーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 難しいテーマであったが、対面交流の不足という課題に対して、オンラインプラットフォームを交流の入り口とする考えについて、理解できた。</li> <li>● 多国籍な学生が在籍する中で、どのように話しかけてプラットフォームへの参加を促すかが難しい点であるが、国際交流イベントで交流のきっかけが生まれれば、解決策としてよい提案になると感じた。</li> </ul>
中川講師 B	宜野湾市を賑わいと活力のある町にする！！	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 観光分野における情報発信に難しい面がある中、インタビューを踏まえて、「よそ者・若者・馬鹿者」から若者に着目した点は、興味深い内容であった。</li> <li>● 提案内容が、短期的、イベント時、継続的な取組みで整理されており、構成が分かりやすかった。また、費用があまりかからないアイデアであり、実効性もあると感じた。</li> </ul>
中川講師 C	バスアプリでつながる、安心・便利な宜野湾のまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新たなアプリを開発するのではなく、既存のバスアプリをより多くの人に使うことに着目した提案について、理解できた。</li> <li>● 高校生の時の登下校時は送迎が多い一方で、アルバイト等では公共交通を利用している実体験を踏まえた提案であり、よくまとまっている。</li> </ul>

②-6. 発表会参加者アンケート結果

調査日	令和7年12月23日(火) ※発表会終了後
調査対象	参加者：約80名
回収数	45通(回収率：56.3%)

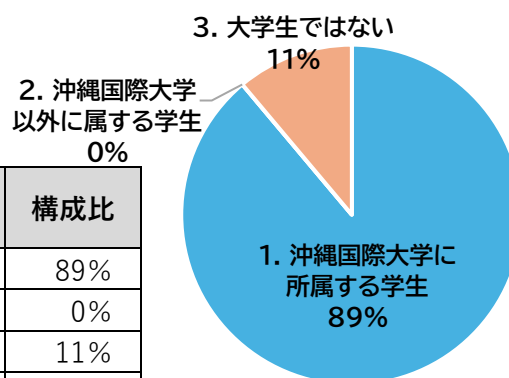
Q1. お住いの地域を教えてください。(1つに○)

選択肢	回答数(件)	構成比
宜野湾市内	5	11%
宜野湾市外	40	89%
合計	45	100%



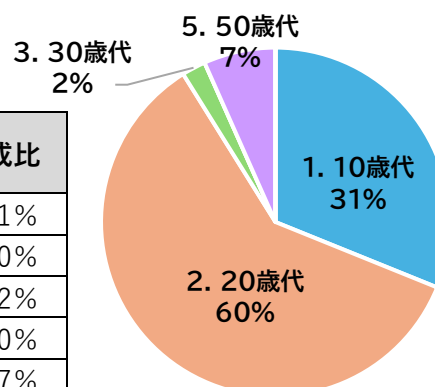
Q2. 所属を教えてください。(1つに○)

選択肢	回答数(件)	構成比
沖縄国際大学に所属する学生	40	89%
沖縄国際大学以外に属する学生	0	0%
大学生ではない	5	11%
合計	45	100%



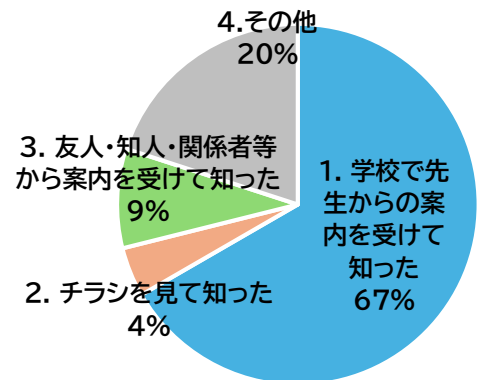
Q3. 年代を教えてください。(1つに○)

選択肢	回答数(件)	構成比
1 0歳代	14	31%
2 0歳代	27	60%
3 0歳代	1	2%
4 0歳代	0	0%
5 0歳代	3	7%
6 0歳代	0	0%
7 0歳代	0	0%
8 0歳代～	0	0%
合計	45	100%



Q4. 本企画提案発表会をどのように知りましたか。(1つに○)

選択肢	回答数 (件)	構成比
学校で先生からの案内を受けて知った	30	67%
チラシを見て知った	2	4%
友人・知人・関係者等から案内を受けて知った	4	9%
その他	9	20%
合計	45	100%

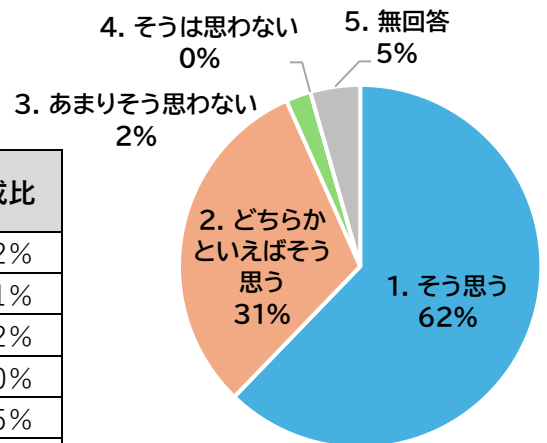


【その他】

- ・発表者、企画を提案した、授業、授業による参加、ゼミ生、講義 等

Q5. まちづくりへの興味・関心は高まりましたか。(1つに○)

選択肢	回答数 (件)	構成比
そう思う	28	62%
どちらかといえばそう思う	14	31%
あまりそう思わない	1	2%
そうは思わない	0	0%
無回答	2	5%
合計	45	100%



Q6. 学生による企画提案に対する感想を記載してください。(記述)

- ・すごく良いと思う。
- ・自治会のことがわからなかったけどAIなどをつかってわかりやすく説明していてよかった。
- ・自治会についての発表を見たのですが、文字も大きくて見やすかったので良かったと思いました。しかし、自治会費をアプリで決算すると、自治会費を払うのが交流の一つだと思うので、その機会が減るのはどうなのかなと思いました。また、現在自治会に加入している年代として高齢の方が多いいと思います。私の家族も自治会に入っていますがその印象があります。なのでアプリ化を図ることで高齢の方の負担は大きくなるのではと思いました。
- ・実際の自治会にインタビューをし、課題や解決策を発表していて、理解しやすく、身近にも感じられた。
- ・まちの現状と照らし合わせながら、企画を作っていて良いなと思いました。

- ・それぞれ特徴のある企画を考案していて良かった。
- ・提案に加え、実現性まで検討が行われている内容があり素晴らしいと思いました。
- ・各学生が様々な企画提案を行っていて、オリジナルの企画提案が沢山あり、とてもいい企画提案会だったと思う。
- ・宜野湾市の課題を色んな角度から知ることができ、その課題に対しての解決方法も驚かせるような提案もあっておもしろかったです。宜野湾市に対して見方が変わって様々なことが知れていい機会になった。
- ・とてもよくできていた。
- ・沖縄の特徴である外国人が多いことや沖縄の課題について着目しており、さらには実際に実行可能な範囲で課題解決を見つけて素晴らしいと感じた。
- ・それぞれのグループの課題に対しての解決策や企画案が自分では思いつかないようなことが多く、聞いていてとても面白いと思いました。また、プレゼンの構成や発表の仕方なども参考になりました。
- ・とても面白かったし、発表を通して地元の課題や自分たちがどうしていくべきか考えるいい機会になった。
- ・それぞれのグループが色々な案を出して勉強になるし知らないことも知れてよかった。
- ・宜野湾市を盛り上げたり、変革を行おうとする姿勢が素晴らしいと思いました。
- ・素晴らしいと思う。
- ・みんなよくできていた。
- ・自分が住んでいる地域の活性化の話ではないが、ここで考えられたことは他の地域にも反映できると思った。
- ・色々な企画案があり、実現可能そうなのもあって面白かった。
- ・学生もまちづくりに関わることが出来るのが良いと思いました。また、他のグループの発表で宜野湾市の課題について、より知ることが出来ました。
- ・大学生でもできるものなどを考えていて、私たちでも関われる企画提案がありいいなと思いました。
- ・人の数だけ色々な考えがあることがわかった。
- ・ひとつしか見ていませんが、自治会の加入率が低いという問題に対して、スマホで加入できるようにするなどいい案が出ていて良かったと思いました。
- ・情報弱者に対する情報提供を企画としてあげたグループが多かったんですけど、この企画や解決策がグループによって違うのがおもしろかった。
- ・自治会がいろんな努力をしているということがわかった。
- ・良いと思った。
- ・パワーポイントのスライドがきれいにまとまっていて良かった。
- ・斬新なアイデアが多く面白いと感じた。
- ・皆さん、大学生で実現できそうな企画を提案していてすごいと思いました。
- ・防災への意識が高まった。
- ・同じテーマでも解決策が様々で楽しく見れた。

- ・祭りや防災、外国人などいろんな点を深めていて、自分では気づけないことが多かったのですごいと思った。
- ・皆良かった。
- ・結構ちゃんと調べて良かったと思う。
- ・様々なテーマでの提案があり良かった。「跡地利用を見据えたまちづくり」についての発言も欲しかった。
- ・学生らしい発想で色々な提案があって感心しました。
- ・自治会に参加する人を増やすために、お試し制度を取り入れると自治会について知ってみようという気軽に参加する人が増え、自治会の大切さを知る良い案だと思った。
- ・クイズがあることで、聞いている方も参加しながら発表を聞けて良かった。
- ・すごかった。
- ・お試しやアプリ化が良い案だなと思った。資料も分かりやすかった。
- ・今の時代に合った考え方で、現代的だと感じた。

Q7. 今後の普天間飛行場の跡地利用に関する講座で実施してほしいテーマやイベントがあれば記載してください。（記述）

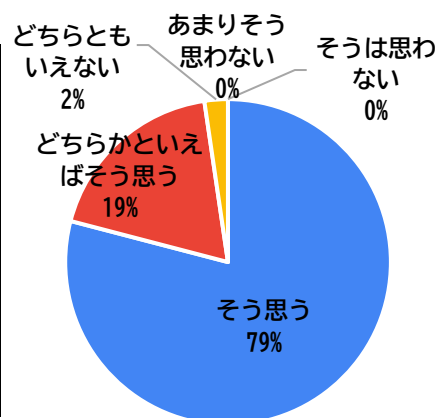
- ・電車つくる。
- ・普天間飛行場跡地は、みどりの中のまちづくりを目指しているため、地権者を含む市民、学生や子供たちのみどりの価値への理解や環境意識を高める内容。
- ・交通整備。
- ・今回は「普天間飛行場の跡地利用を見据えた」グループが少なかったのが残念でした。この辺をもう少し重視したものにするとよいかな、と思います。
- ・子どもの居場所づくりで大学生が空き時間に宿題や遊ぶなどをする学童のようなことをするといったテーマを実施して欲しいです。
- ・ショッピングモールを作って欲しい。
- ・発表したスライドを掲載する。
- ・この発表会をもっと多くの人に発信できるような、もう少し大きなイベントにしても良いと思います。

②-7. 受講者アンケート結果

調査日	令和8年1月7日（火）※発表会後の振り返り授業にて
調査対象	参加者48名
回収数	43通（回収率：89.6%）

Q1. 授業内容はわかりやすかったですか。（1つに○）

選択肢	回答数 (件)	構成比
そう思う	34	79%
どちらかといえばそう思う	8	19%
どちらともいえない	1	2%
あまりそう思わない	0	0%
そうは思わない	0	0%
無回答	0	0%
合計	43	100%



Q2. 授業内容の良かった点を教えてください。（記述）

- ・フィードバックを貰えた。
- ・宜野湾市について今一度考えるきっかけになった。
- ・やりやすかった。
- ・いつもまとめてくれて資料をもってきてくれるところ。
- ・考える悩むことができた。
- ・見回りで歩いている先生や、職員の方たちの声掛けが良かった。
- ・資料が充実していた。
- ・宜野湾市が抱えている問題を授業を通して知れた。
- ・自分たちで協力して課題に取り組み発表するところまでするという経験ができたこと。
- ・宜野湾市について知れた。
- ・他のゼミと合同でいろんな考えを知れた。
- ・グループで一緒にプレゼン資料を作る工程がよい経験になったと思います。
- ・知らない人と仲良くなれた。
- ・資料で前回までの内容がまとめられていて取り組みやすかった。
- ・講師がうろちょろしてて質問しやすかった。
- ・グループ学習の中での、市役所に実際にインタビューすることや、まち観察などが良かった。
- ・宜野湾市について知らなかったことや、今の現状について様々なことを知ることができました。また、自分は考えて発表するということが苦手なのでみんなの前で発表するのは緊張しましたが、自分なりに達成感がありました。
- ・宜野湾市のことについて知れてなかったので、今回の機会に知れてよかった。
- ・自分たちで考えて発表出来たこと。
- ・コンサルさんのいつもくださる資料がわかりやすかった。

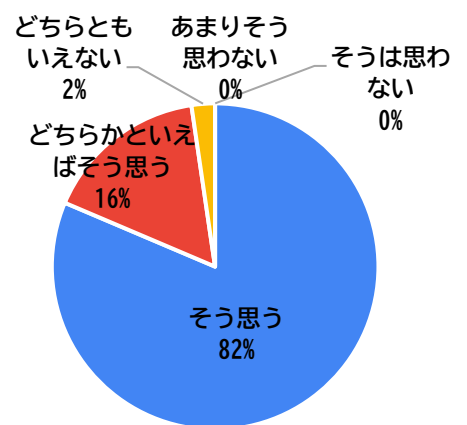
- ・こっちが悩んだりするとき職員さん達が色々情報くれたり手助けしてくれて有難かった。
- ・達成感があってよかったです。
- ・どんな感じで進めていくかが毎回まとめられていたのでやりやすかった。
- ・自分達の知らない知識を深掘り出来る良い機会になった。
- ・一つ一つの資料がわかりやすかったしアドバイスが的確で自分たちの欠点がわかりやすく解決しやすかった。
- ・毎回細かく分かりやすいレジュメと説明、また沢山の方のサポートのおかげで最初は全く想像できなかった発表も徐々に方向性が見えてきて有難かったです。
- ・改めて宜野湾市について考えるきっかけになった。
- ・資料や、こういった企画しますよ。などの説明がわかりやすかったり、親身になって相談に乗ってくれるので良かったです。
- ・地元のことを今まで考えたことなかったけど考えるいい機会になった。
- ・宜野湾市について知らないことが多かったのですが、ヒアリング調査を行った際に頂いた資料や授業内で頂いた資料が分かりやすく、スムーズにグループワークを行うことが出来た。
- ・毎時間配布される資料が見やすく、宜野湾市の行政や、まちのイメージなどが湧きやすかった。また、グループ内で意見を出し合い、それについて取り組むことで、知識やグループ内での仲も深まった。
- ・毎回、資料が分かりやすかった。
- ・宜野湾市について分かりやすい資料があって、楽しく取り組めたかなと思います。
- ・まちづくりについて考え、自分たちの意見を出し、それについての具体案やヒアリング調査などなかなかできない体験をすることができた。
- ・インターネットで調べるだけでなく、フィールドワークも設けていて良かったです。
- ・今やるべきことが明確にされていること。サポートがあること。
- ・分からないことや、聞きたいことを講師の方がすぐに答えやヒントを言ってくれてテーマについて内容を深めていくのにとっても助かった。
- ・グループワークなど常に話し合いの場を設けていた点。
- ・この授業を通して、人前にでて発表する力、課題発見力が身についた。

Q3. 授業内容の改善してほしい点を教えてください。（記述）

- ・テンポが遅い。
- ・パワポの作成時間を増やしてほしい。
- ・もう少し時間が欲しかった。
- ・時間が足りない点。
- ・アドバイスが多かった分、自分たちでひねり出すより頼ってしまったから苦労した。
- ・あと1時間プレゼンをまとめる時間が欲しかったです。
- ・他のグループと内容が被る場合があったのでテーマを全員違うようにするべきだと感じた。
- ・相談する機会を増やして欲しかった。
- ・もう少し時間掛けたり、長い期間でやりたかったです。急ピッチで作ったりして慌しかったです。
- ・過去のプレゼン者の改善点を教えてあげたら、回数を重ねるごとにもっと良くなると思う。
- ・自分で考える時間が少なかったかなと思います。すぐ発表のための案を出さないといけなかったのが大変だったかなと思いました。
- ・全体でのものだけでなくリハーサルがあればより取組みやすかった。
- ・最初の問題設定の段階でそのグループしかこの問題が出てないというだけでそのグループがこの問題を受け持つことになるのは大変だと思いました。
- ・序盤は進み具合が悪くて、最終的なイメージが付かなかったから、過去の発表会の例とかがあれば紹介して欲しい。

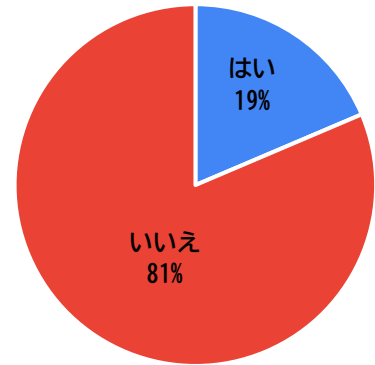
Q4. この授業によって知識が増えたり、まちづくりへの興味・関心は高まりましたか。（1つに○）

選択肢	回答数 (件)	構成比
そう思う	35	82%
どちらかといえばそう思う	7	16%
どちらともいえない	1	2%
あまりそう思わない	0	0%
そうは思わない	0	0%
無回答	0	0%
合計	43	100%



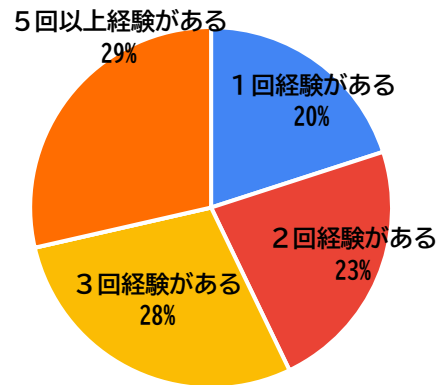
Q5. グループワークは初めてでしたか。(1つに○)

選択肢	回答数 (件)	構成比
はい	8	19%
いいえ (- 回経験がある)	35	81%
無回答	0	0%
合計	43	100%



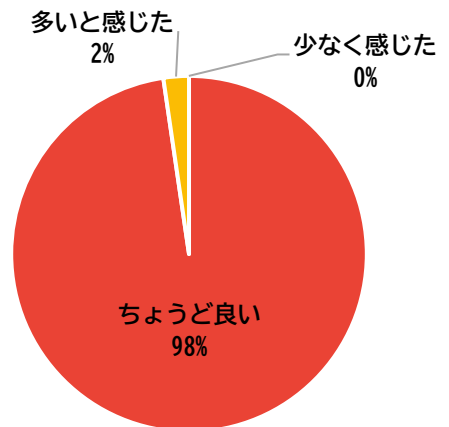
(Q5.- ②) →いいえ (数値選択)

選択肢	回答数 (件)	構成比
1回経験がある	7	20%
2回経験がある	8	23%
3回経験がある	10	28%
4回経験がある	0	0%
5回経験がある	10	29%
無回答	0	0%
合計	43	100%



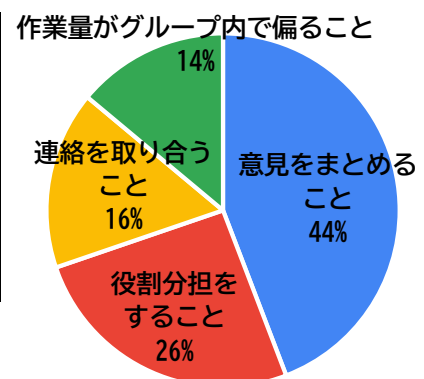
Q6. グループワークの人数はどうでしたか。(1つに○)

選択肢	回答数 (件)	構成比
少なく感じた	0	0%
ちょうど良い	42	98%
多いと感じた	1	2%
無回答	0	0%
合計	43	100%



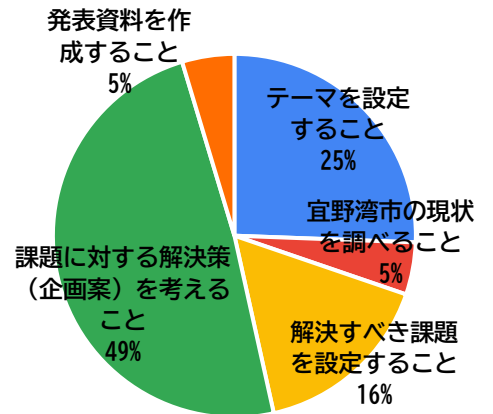
Q7. グループワークを進めるにあたって最も難しく感じたことは何ですか。(1つに○)

択肢	回答数 (件)	構成比
意見をまとめること	19	44%
役割分担をすること	11	26%
連絡を取り合うこと	7	16%
作業量がグループ内で偏ること	6	14%
合計	43	100%



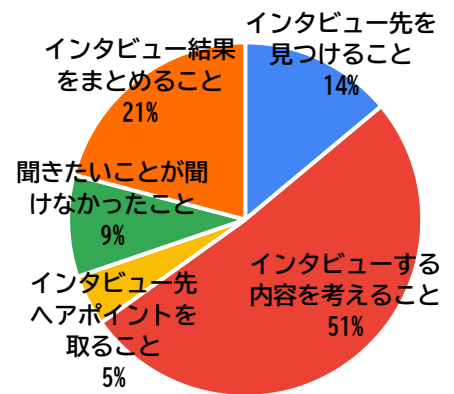
Q8. まちづくり企画を考えるにあたって最も難しく感じたことは何ですか。（1つに○）

選択肢	回答数 (件)	構成比
テーマを設定すること	11	25%
宜野湾市の現状を調べること	2	5%
解決すべき課題を設定すること	7	16%
課題に対する解決策（企画案）を考えること	21	49%
発表資料を作成すること	2	5%
無回答	0	0%
合計	43	100%



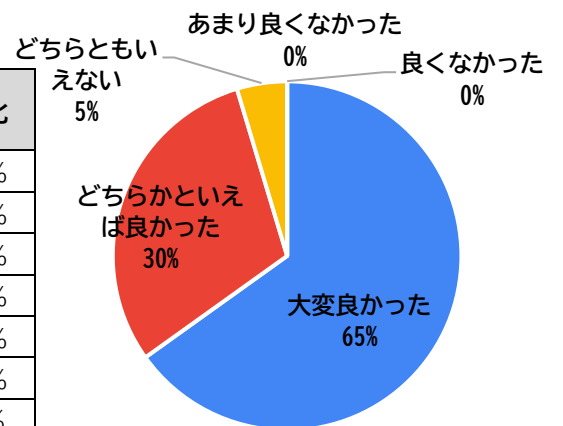
Q9. インタビューを進めるにあたって最も難しく感じたことは何ですか。（1つに○）

選択肢	回答数 (件)	構成比
インタビュー先を見つけること	6	14%
インタビューする内容を考えること	22	51%
インタビュー先へアポイントを取ること	2	5%
聞きたいことが聞けなかったこと	4	9%
インタビュー結果をまとめること	9	21%
無回答	0	0%
合計	43	100%



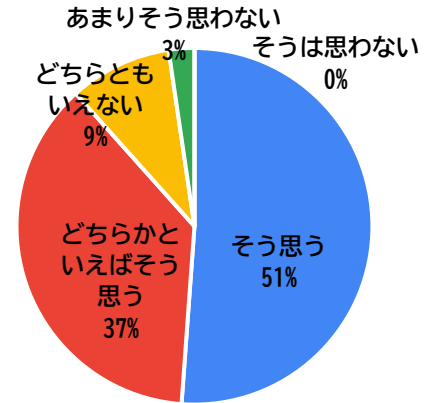
Q10. 企画提案発表会は、いかがでしたか。（1つに○）

選択肢	回答数 (件)	構成比
大変良かった	28	65%
どちらかといえば良かった	13	30%
どちらともいえない	2	5%
あまり良くなかった	0	0%
良くなかった	0	0%
無回答	0	0%
合計	43	100%



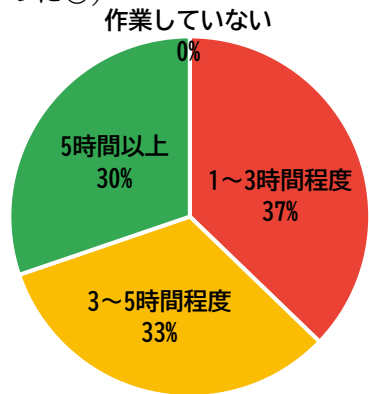
Q11. 企画提案発表会では、自分の想いやアイデアを伝えることができましたか。(1つに○)

選択肢	回答数 (件)	構成比
そう思う	22	51%
どちらかといえばそう思う	16	37%
どちらともいえない	4	9%
あまりそう思わない	1	3%
そうは思わない	0	0%
無回答	0	0%
合計	43	100%



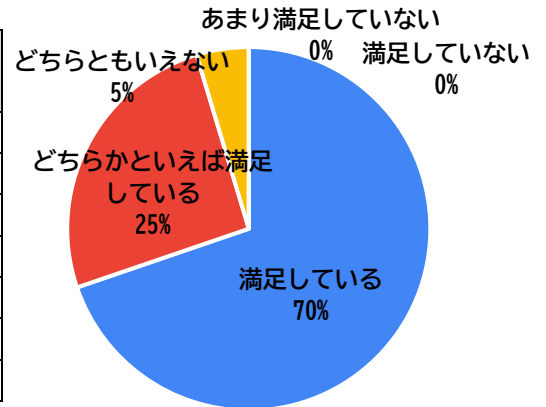
Q12. 授業時間外に作業は合計してどれくらい費やしましたか。(1つに○)

選択肢	回答数 (件)	構成比
作業していない	0	0%
1～3 時間程度	16	37%
3～5 時間程度	14	33%
5 時間以上	13	30%
無回答	0	0%
合計	43	100%



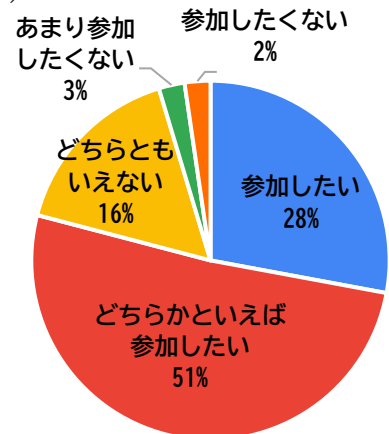
Q13. 授業は全体として満足できるものでしたか。(1つに○)

選択肢	回答数 (件)	構成比
満足している	30	70%
どちらかといえば満足している	11	25%
どちらともいえない	2	5%
あまり満足していない	0	0%
満足していない	0	0%
無回答	0	0%
合計	43	100%



Q14. このような講義があれば参加してみたいですか。(1つに○)

選択肢	回答数 (件)	構成比
参加したい	12	28%
どちらかといえば参加したい	22	51%
どちらともいえない	7	16%
あまり参加したくない	1	3%
参加したくない	1	2%
無回答	0	0%
合計	43	100%



### 3) 今後の課題

#### 【取組み成果】

- 大学生による企画提案の発表
  - ・沖縄国際大学と連携し、大学2年生の3クラスを対象とした演習授業をとおして、まちづくりを考えるための進め方や方向性を示しながら、発表を実施することができた。
- まちづくりについて継続して考える機会の創出
  - ・10月から約2か月間の演習授業をとおして、普天間飛行場の跡地利用と周辺市街地におけるまちづくりについて、大学生が企画提案を行う機会を設けることができ、まちづくりへの関心や理解が高まった。また、大学生がまちづくりについて考える講座を継続して開催することができ、人材育成に繋がった。
  - ・大学生による市民、地権者、若手の会等に向けた発表会を通して、まちづくりへの興味・関心が高まった。

#### 【今後の課題】

- 沖縄国際大学とのコラボについて
  - ・引き続き、演習授業実施の際にはコンサルタントが各回に出席してグループの進捗確認や取組みに関する方向性を示すなど、必要に応じたサポートが望ましい。
  - ・演習授業においては、学生が能動的にまちづくりを考えられるような講義内容の設定、企画作成に加え発表に向けた準備を十分に行うことが望ましい。
- 企画内容の実現に向けた検討
  - ・企画提案発表会における最優秀グループの選定は、学生のまちづくりに関する学習意欲の向上に繋がった。さらに、まちづくりの関心を高めるため、企画した内容の実現に向けて市と大学が連携し、支援の実現に向けた検討を行うことが望ましい。
- 市民や地権者に向けた情報発信
  - ・より多くの市民や地権者に向けた情報発信を行うため、まちづくり講座に市民や地権者参加型で一緒にまちづくりを考える機会を創出するなど、情報発信の方法や内容については更なる工夫が必要である。

## (2) 先進地視察会及び受入れ先勉強会等の企画・開催

### 1) 開催概要

国内先進地事例情報の収集・蓄積及び議論の深化を目的として、先進地視察会及び勉強会を企画・開催した。

今年度は、「まちづくり合意形成の在り方」の参考として大阪府での4か所を訪問した。大阪市北区「うめきたプロジェクト」では都心の中の公園整備やまちづくりGXのあり方について、大阪市此花区「大阪・関西万博」では次世代モビリティやSociety 5.0が実現する未来社会の体験・見学、茨木市「おにクル」では子育て支援施設を中心としたにぎわい複合施設や市民活動の拠点となる空間のあり方、高槻市「安満遺跡公園」では公民連携によるみどりの創出について現地視察を行った。

### ①視察先

月 日	視 察 先
9/1 (月)	うめきたプロジェクト (大阪市北区)
9/2 (火)	大阪・関西万博 (大阪市此花区)
9/3 (水)	おにクル (茨木市)、安満遺跡公園 (高槻市)

### ②テーマ

#### 【みどりの中のまちづくり】

普天間飛行場跡地のまちづくりにおいて、沖縄振興・国際交流の舞台を支えるため、新たな高付加価値を生み出す源として跡地全体に魅力ある緑地空間を公民一体となって創出することが求められている。都心の中の公園整備やまちづくりGXの在り方、公民連携によるみどりの創出に関する知識を習得する。

#### 【環境の豊かさが持続するまちづくり】

普天間飛行場跡地のまちづくりにおいて、脱炭素社会の実現に向けた環境負荷の低いエネルギー利用への転換や多様化するライフスタイルの実現等、変化する社会情勢への柔軟な対応を目標として、新たな産業の誘致や最先端技術の導入等、未来志向の取組みの推進が求められている。次世代モビリティやロボットエクスペリエンス、Society 5.0が実現する未来社会の体験・見学、カーボンニュートラルの実現に向けた取組みに関する知識を習得する。

#### 【市民の新しい生活拠点となるまちづくり】

普天間飛行場跡地のまちづくりにおいて、都市拠点ゾーンでは市民の生活利便性の向上や市民意識の高揚を目標として、市庁舎を含む市民利用施設の移転・新設や交流の場となる市民広場の整備等により、市民の新しい生活拠点となる市民センター整備の推進が求められている。子育て支援施設を中心としたにぎわい複合施設や市民活動の拠点となる空間の在り方に関する知識を習得する。

【視察先位置図】



③参加者

NO	所属	氏名
1	宜野湾市役所 基地政策部 まち未来課	宮城 恵美
2		仲本 彩乃
3	日本工営都市空間株式会社	傍島 宏明
4		大城 舜太

## ④旅程

日 時	内 容	備 考
9/1 (月)	8:30 那覇空港 集合 9:45 那覇空港 出発 11:40 神戸空港 到着 12:30 神戸空港 出発 ↓リムジンバスで移動(約1時間) 13:40 大阪駅 到着 14:00 昼食 14:50 うめきた都市再生事務所 到着 15:00 ▼座学・見学(約2時間00分) 17:00 視察終了 ↓徒歩で移動(約2時間30分) 17:30 宿泊ホテル 到着	講師：UR 都市機構西日本支社 うめきた都市再生事務所 遠藤所長 企画補償課 土橋課長 座学会場： うめきた都市再生事務所会議室
9/2 (火)	8:30 宿泊先ホテル 出発 ↓電車で移動(約30分) 9:00 大阪・関西万博 到着 9:30 ▼視察・体験(約2時間30分) 12:00 昼食 13:00 ▼視察・体験(約4時間00分) 17:00 視察終了 ↓電車で移動(約30分) 17:30 宿泊ホテル 到着	
9/3 (水)	8:30 宿泊先ホテル 出発 ↓電車・徒歩で移動(約30分) 9:00 おにクル 到着 9:30 ▼施設見学(約60分) 11:00 視察終了 ↓電車・徒歩で移動(約30分) 11:30 安満遺跡公園 到着 11:30 ▼視察(約60分) 12:30 視察終了 ↓バス・電車で移動(約1時間20分) 13:50 関西国際空港 到着 14:00 昼食 15:40 関西国際空港 出発 17:45 那覇空港 到着 解散	案内：茨木市共創推進課 松井様 見学：おにクル

## 2) 各視察先の概要

### ①うめきたプロジェクト【大阪市北区】

#### 【概要】

本地区は、大阪の“都心に残された最後の一等地”とも称される場所であり、関西最大のターミナルである大阪駅・梅田駅前に位置し、梅田貨物駅（約24ha）の跡地である。

その跡地を利用して、土地区画整理事業（UR 施行）、防災公園街区整備事業（UR 施行）、土地有効利用事業（UR 施行）、JR 東海道線支線地下化事業及び新駅設置事業の4つの事業が行われている。また、まちづくり方針として「「みどり」と「イノベーション」の融合拠点」を掲げており、世界の人々を惹きつける比類なき魅力を備えた「みどり」と、新たな国際競争力を獲得して世界をリードする「イノベーション」の拠点を創出することを目指している。

本地区は、最先端技術の導入・実証実験の実施を行いやすいグリーンフィールドとしての特性を活かし、豊富なデータの利活用の実現を目指し、事業創出・市民のQOL向上・マネジメントの高度化に資する施策に官民の枠を超えて取り組んでいる事例である。

訪問先	うめきた地区（大阪市北区大深町ほか）
区域面積	約24.0ha（うち防災公園4.5ha）
事業手法	土地区画整理事業 防災公園街区整備事業 土地有効利用事業 JR 東海道線支線地下事業及び新駅設置事業



出典：UR 都市機構 HP

### 【選定理由】

普天間飛行場跡地のまちづくりにおいて、沖縄振興・国際交流の舞台を支えるため、新たな高付加価値を生み出す源として跡地全体に魅力ある緑地空間を公民一体となって創出することが求められている。

うめきたプロジェクトでは、UR 施行による土地区画整理事業と合わせて、防災公園街区整備事業や土地有効利用事業が実施されている。大阪の“都心に残された最後の一等地”とも称される場所に約 4.5ha の公園を整備し、公民連携によるみどりの創出やタウンマネジメントによる付加価値の向上など、普天間飛行場跡地の「みどりの中のまちづくり」の参考になると考え、選定した。

### 【事例の特性】

#### ●防災機能

- 広域避難場所の中心として、災害活動拠点となる防災公園（約 4.5ha）を整備。（大阪駅周辺地域の防災機能の強化）
- 防災公園は、非常用照明やマンホールトイレ、備蓄倉庫等を整備し、災害時には一時避難者約 3.4 万人を 3 日程度収容可能。また、隣接する民間宅地施設から非常時電力供給を受けることが可能。

#### ●公民連携

- 国際コンセプトコンペとして、21 世紀のまちづくりのモデルとなるような提案や多様なアイデアを広く世界から求め、開発基本構想及び今後のまちづくりに活用していくために実施。（作品応募状況⇒世界 52 か国：966 提案）
- 開発事業者募集時に、タウンマネジメント組織による施設管理を前提とした計画提案を条件付け。
- 土地区画整理事業による整備内容または負担額を超える整備費用については、開発事業者が負担。（例：公園施設（キューブ）、池・水盤、高規格の樹木、防犯カメラ）
- 日本初の BID 条例（特定の地域における地権者が共同で負担金を徴収し、その資金を使って地域の価値向上や活性化を図る）によるまちづくり。

①-1. 座学

うめきたプロジェクトについて、UR 都市機構西日本支社うめきた都市再生事務所 遠藤所長、企画補償課 土橋課長より説明を受けたあと質疑応答を行った。

日時	令和7年9月1日(月) 15:00~17:00
会場	うめきた都市再生事務所会議室



写真：座学の様子①



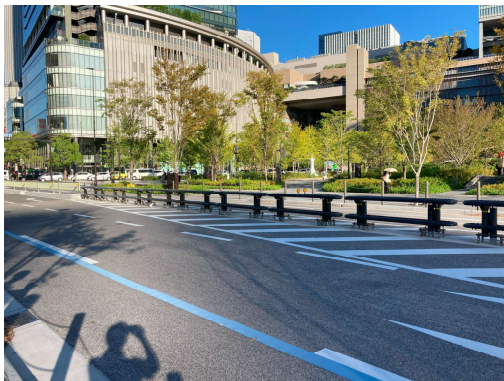
写真：座学の様子②



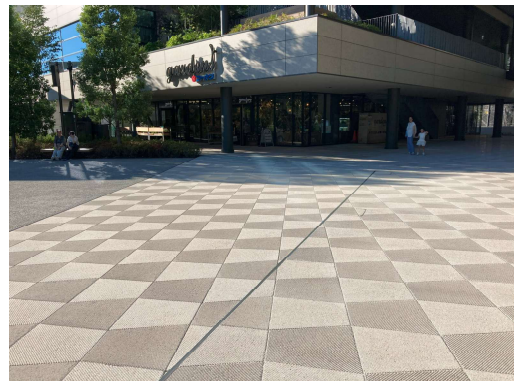
写真：民間提案（負担）による大屋根



写真：民間提案（負担）による池・水盤



写真：民間提案（負担）による可動式の中央分離帯



写真：公民連携によるシームレスな官民界

【質疑応答】 一部抜粋

- Q 1. 都心の一等地に「みどり」をキーワードとしたまちづくりや、各機能（住宅、オフィス、ホテル、商業、ナレッジキャピタル）を導入するにあたっての決定の経緯や留意した点、UR都市機構及び大阪市の関わりについてお聞かせ願います。  
⇒当初は、大阪市は公園整備における費用面や管理面での負担から消極的であったが、関西経済界等から大阪市の「みどり」が少ないことに加え「みどり」の価値の重要性に対する意見や、民間提案者と対話を重ねながら決定した。
- Q 2. うめきたプロジェクトにおけるまちづくりの方針決定や民間事業者募集、土地区画整理事業等におけるUR都市機構の役割や関わりについてお聞かせ願います。  
⇒大阪市より事業要請を受けてプロジェクトに参画し、計画策定支援、基盤整備、土地取得、民間誘導等の役割を担っている。関係者が多い中でプロジェクトを円滑に進めるためには、事業開始前の計画段階から誰が何をどこまで負担するのか、役割分担を明確にすることが重要である。また、大阪・関西万博に先行してまちびらきすることが必達目標であり、関係者調整や周辺の交通量が多い状況下での工事調整にも苦慮した。
- Q 3. 国際コンセプトコンペを実施するに至った経緯と公募方法、プロジェクトに反映した点等についてお聞かせ願います。また、コンセプトコンペを事業者公募の参加要件にした、公募時のインセンティブにした、など、事業者公募をにらんだ関係性があればお聞かせ願います。  
⇒基本計画は大阪市が主導で策定しており、URは支援する立場であり、国際コンセプトコンペの経緯等は具体的には説明できない。ただ、プロジェクトに反映した点としてはナレッジキャピタルを核としたまちづくり、公募時のインセンティブは無かったと思われる。
- Q 4. 民間事業者募集にあたって、エントリーが増えるような効果的な取り組みや、募集要項における留意点等についてお聞かせ願います。  
⇒エントリーを増やすことが目的ではなく、プロジェクトを実現できる民間事業者を募ることが目的であった。サウンディング調査を踏まえた上で、必須条件を設定し、参画可能性のある民間事業者を募っている。民間募集では、土地区画整理事業で整備する範囲と費用を示し、それ以外は民間負担で提案を求めている。都市公園内の大屋根や池、防犯カメラ等も民間が整備している。
- Q 5. 土地区画整理事業を第1期、第2期に分けた経緯とメリット・デメリットがあればお聞かせ願います。  
⇒貨物機能が移転できた区域から段階的に事業化している。仮に同時に事業化していた場合、4.5haの都市公園は整備されていなかった。都市機能は、時代の流行り・廃りがあるため、規模が大きく長期化する場合は、段階的な開発もプラスの面もあると思うが、段階的な開発がベストとは考えていない。

- Q 6. 都市公園事業（防災公園街区整備事業）について、計画検討期間（地方公共団体からの要請～整備着手まで）をお聞かせ願います。また、都心の一等地に都市公園約4.5haを整備した効果についてお聞かせ願います。
- ⇒2011年に大阪市長が代わって、大阪市内の「みどり」や災害時の大規模避難場所の必要性から議論が加速した。2015年に大阪市からUR都市機構へ事業要請があり、2019年に都市計画決定、2022年から工事がスタートしている。効果については、調査中ではあるが、例えば、直接的な効果として、環境負荷低減、ヒートアイランド抑制、健康増進等、間接的な効果として、魅力ある公園が近接、シビックプライド、不動産価値向上等が考えられる。
- Q 7. まちづくり推進協議会や検討会、大阪駅周辺地域部会、開発協議会等の各組織の構成メンバーや目的・役割、大阪市やUR都市機構との関わりについてお聞かせ願います。
- ⇒まちづくり推進協議会は、2012年に国際コンセプトコンペを実施、議論したことが基本計画の策定に繋がっている。
- ⇒大阪周辺地域部会は、大阪駅周辺の都市再生、市街地整備を協議する機関である。国、大阪府、大阪市、関西経済界、JR、有識者、UR都市機構等で構成され、うめきた2期の方向性を議論している。
- ⇒開発協議会は、選定された民間事業者、有識者、UR都市機構等で構成され、民間事業者の提案を受けた計画変更の可能性を議論している。
- Q 8. タウンマネジメントの構成企業（団体）とその役割、設立の経緯と主な取り組み、運営（資金面等）、周辺地域（新梅田シティなど）との連携についてお聞かせ願います。
- ⇒都市公園は50年間の指定管理、都市公園に加えて、エリアマネジメントも実施している。公園や歩道等の公共施設のグレードアップや管理運営、イベントの開催、情報発信等により、地域の価値を高める取り組みを実施しているが、指定管理料は受け取っていない。これは、都市公園の周辺で、地価高騰とともに、高利益を確保できる本地区だからできるスキームだと考えられる。
- ⇒一般社団法人うめきたMMO（都市再生推進法人）の運営資金は、MIDORIパートナー制度による協賛金、大屋根のネーミングライツ等によって賄っている。
- Q 9. 本地区におけるスマートシティやまちづくりGXにおける取り組みや特徴についてお聞かせ願います。
- ⇒うめきた2期は、国土交通省のスマートシティ実行計画を採択しており、都市公園で実証実験を行っている。また、都市公園内の施設（キューブ）を活用しながら、来訪者の運動、ビジネス活動等について、都市公園のポテンシャルを見える化する取り組みを行っている。また、TSUNAG（優良緑地確保計画認定制度）を取得し、省エネルギー、熱利用、低炭素、エネルギー循環にも取り組んでいる。
- Q 10. 昨今の物価等の高騰による影響や、資金面での苦労はなかったか。
- ⇒早い段階で施工業者と契約ができていたため、大きな影響はなかった。

## ②大阪・関西万博【大阪市此花区】

### 【概要】

令和7年4月から開催されている大阪・関西万博の会場である夢洲は、大阪市内の臨海部に位置する面積約155haの人工島である。

「いのち輝く未来社会のデザイン」のテーマの下、ポストコロナの時代に求められる社会像を世界と共に提示していくとともに、リアルとバーチャルを融合させた新しい国際博覧会である。

大阪・関西万博のコンセプトである「People's Living Lab（未来社会の実験場）」に基づき、カーボンニュートラル、デジタル技術、次世代モビリティなど、最先端の技術や社会システムを会場や運営、展示等に活用する未来社会ショーケース事業に加え、ARやVRなどの先端技術を活用して、会場を訪れることのできない人でも会場外から大阪・関西万博を体験することのできるバーチャル万博となっている。

### 訪問先

大阪・関西万博  
(大阪市此花区夢洲)

## 【選定理由】

普天間飛行場跡地のまちづくりにおいて、脱炭素社会の実現に向けた環境負荷の低いエネルギー利用への転換や多様化するライフスタイルの実現等、変化する社会情勢への柔軟な対応を目標として、新たな産業の誘致や最先端技術の導入等、未来志向の取り組みの推進が求められている。

大阪・関西万博では、次世代モビリティやロボットエクスペリエンス、Society 5.0 が実現する未来社会の体験・見学できる。AR（拡張現実）やVR（仮想現実）等のバーチャル技術、自動運転やパーソナルモビリティ等を実際に体験することにより、最先端技術を導入した場合の地区への効果など、普天間飛行場跡地の「環境の豊かさが持続するまちづくり」の参考になると考え、選定した。

## 【事例の特性】

### ●合意形成ツール

- AR（拡張現実）やVR（仮想現実）等のバーチャル技術を活用して、実際に会場に来なくても来ることができない障がい者、高齢者、遠方の方等、世界中の多くの人に参加できる。
- 180° 視野角のVRドームシアターによる過去や現在、未来をリアルに体験。
- シアタールームにおける100人規模でスマートフォンやタブレットを使用したインタラクティブな体験。

### ●スマートモビリティ

- 移動・モビリティでは、外部アプリとの連携等を通じて、万博会場外の公共交通や会場内のモビリティ、チケット購入等の関連サービスを組み合わせた検索・予約・決済等や、会場内の情報、周辺の観光情報等を、AIを活用し最適化し提供するアプリを導入。
- レベル4 相当の自動運転及び走行中給電といった新技術を融合させたEVバスの実証実験。
- 近い将来に予想される歩行者とパーソナルモビリティ（座ったまま体重移動で全方位に移動できるハンズフリーパーソナルモビリティ等）や、警備ロボット（巡回しながらカメラでとらえた映像をAI解析し、ルート上に転倒者や障害物を検知した場合は防災センターに通報）が共存する歩車混合交通システムの体験が可能。

### ●スマートシティ

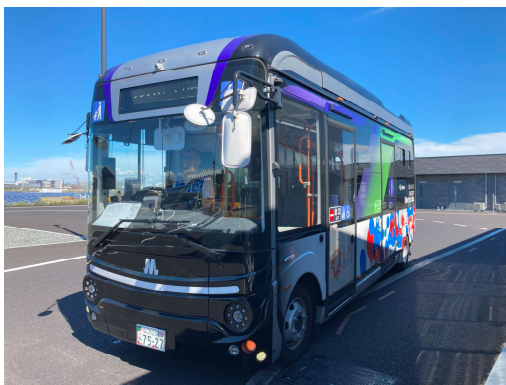
- 会場設計では、Society5.0 実現型会場にふさわしいチケットティング、MaaS、自動運転等の各種サービスを連携させる情報通信基盤や来場者等の認証方法、セキュリティ、バックアップ等を確保するためのオペレーティングシステムを導入。
- 環境・エネルギーでは、カーボンニュートラル、エネルギーを最適化する技術、水素エネルギー技術のショーケースを導入。
- 情報通信・データでは、Society5.0 実現型会場の重要インフラであるネットワークとして、高速・大容量、低遅延、多数同時接続の5G等ネットワークを整備。



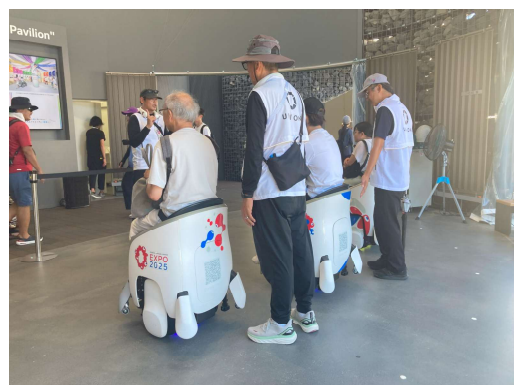
写真：180° 視野角の VR ドームシアター  
によるリアル体験



写真：100 人規模でインタラクティブな  
体験



写真：レベル4 相当の自動運転及び走行  
中給電といった新技術を融合させ  
た EV バスの実証実験



写真：座ったまま体重移動で全方位に移  
動できるハンズフリーパーソナル  
モビリティ



写真：巡回しながらカメラでとらえた映  
像を AI 解析し、ルート上に転倒者  
や障害物を検知した場合は防災セ  
ンターに通報する警備ロボット

### ③おにクル【茨木市】

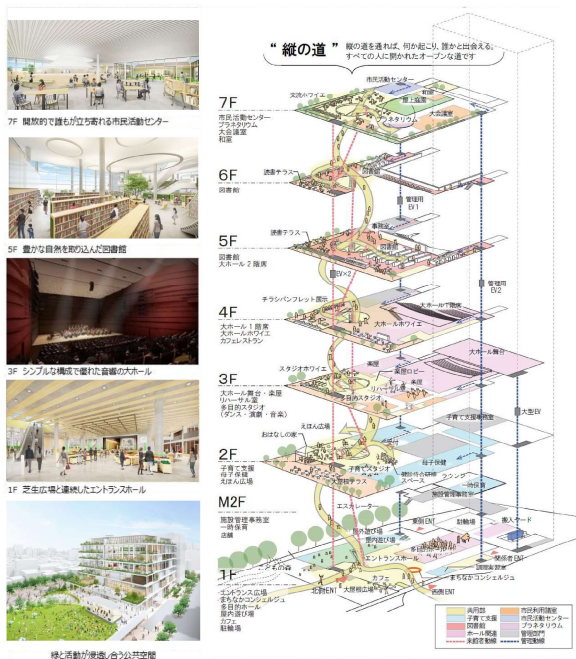
#### 【概要】

おにクルは、市民会館跡地の第一期整備（約 0.7ha）により、2023 年 11 月にオープンした文化・子育て複合施設である。名称は、一般募集と市民投票を経て、愛称が「楽しそうで鬼も来たくなる場所」という意味が込められた「おにクル」に決定している。

「日々何かが起こり、誰かと出会う」を設計コンセプトに、7 階建てのフロアをつなぐ吹き抜け構造となっており、ホール、図書館、子育て支援センター、プラネタリウム等の機能が集まる。

建物の北側に広がる芝生広場を含めたエリアは「育てる広場」をキーコンセプトに、オープン前と後において、どのように使って変えていくかを市民と一緒に考え、皆で作りに上げていく施設となっており、子育て支援施設を中心としたにぎわい複合施設や市民活動の拠点となる空間のあり方の参考となる事例である。

訪問先	おにクル (茨木市)
-----	---------------



出典：茨木市市民会館跡地エリア第二期整備基本計画

### 【選定理由】

普天間飛行場跡地のまちづくりにおいて、都市拠点ゾーンでは市民の生活利便性の向上や市民意識の高揚を目標として、市庁舎を含む市民利用施設の移転・新設や交流の場となる市民広場の整備等により、市民の新しい生活拠点となる市民センター整備の推進が求められている。

おにクルでは、子育て支援施設を中心としたにぎわい複合施設や市民活動の拠点が形成されている。市民との対話や社会実験を重ねながら拠点整備検討を行ったプロセスや、市民や子育て世代の目線を重視した拠点空間のあり方が普天間飛行場跡地の「市民の新しい生活拠点となるまちづくり」の参考になると考え、選定した。

### 【事例の特性】

#### ●子育て支援機能

- こども支援センターは、妊娠から出産・子育てまでの切れ目ない支援や各相談窓口をワンストップで提供。各種検診を行う診察室があるほか、一時保育室も完備。

#### ●合意形成

- 「市民会館 100 人会議」は、市長と市民 99 人が「対話」により、市民会館の跡地活用のコンセプトなどを決定。
- 市民会館跡地エリアの活用をみんなで考え、「育てる広場」にしていくため、「こんな場所になったらいいな」、「こんな過ごし方ができる場所にしたい」、そんな思いやアイデアをみんなで話し合い、カタチにするためのワークショップの開催。
- 跡地エリアを活用した新施設や広場空間等の整備内容の検討の一つとして、芝生広場づくり、企画づくり、実施まで市民とともに考え、実施。

### ③-1. 事前質問と現地見学

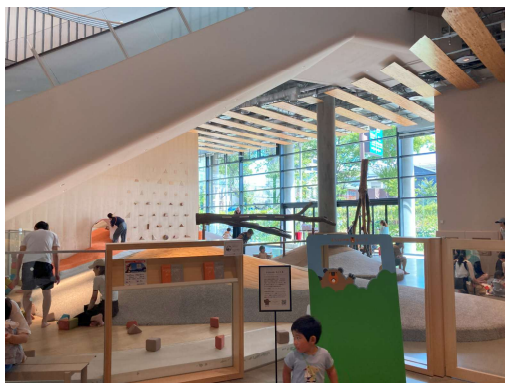
事前質問を行うとともに、当日は、おにクルの施設内について、茨木市共創推進課の松井様より説明を受けながら現地見学を行った。



写真：ワンフロアに子育て相談窓口、一時保育室や診察室が集約



写真：使いやすさに合わせてレイアウトが変更可能な市民活動センター



写真：木の香りやぬくもりを重視したこども広場



写真：大ホールにおけるネーミングライツ



写真：立体的な公園をテーマにした図書館の円形ベンチ



写真：子ども専用の読書スペース

【質疑応答】 一部抜粋

Q 1. 市民会館跡地に「育てる広場」をキーコンセプトとした構想や、各機能（図書館や子育て機能、市民活動センター）を導入するにあたっての決定の経緯や留意した点についてお聞かせ願います。

⇒「育てる広場」は市民との対話の中で生まれたコンセプトである。ハコモノになってしまわないよう、行政は、皆さんが使いたくなるような「場」を提供して、その「場」をどのように使い、変えていくかは、皆さんと一緒に考え、育んでいく場にしたいという想いが込められている。

⇒行政的な視点としては、基本構想で社会情勢・政策課題の把握も行っており、市役所各部署が跡地エリアに必要な機能として出した意見に図書館やプラネタリウムなどがあつた。なお、その後「茨木市市民会館跡地エリア活用基本計画」(2018.12)において、公共施設マネジメントの観点から、施設機能の再配置の方向性を示すとともに、財源としての社会資本整備総合交付金の適切な活用についても言及している。

Q 2. 基本構想策定にあたって、市民会館100人会議による市民との対話を実施しているようですが、どのような会議内容・出席者で市民との対話を図ったのか、また市民からはどのような要望が多く上がったのかお聞かせ願います。

⇒無作為抽出5000人へ参加依頼し170人から希望があり抽選を行い参加者を選定している。その後のWSは、新たに公募したり、社会実験を行うことで、増減をくり返している。また、市長と直接対話しやすい人数として、100人を年代などの属性毎に10人程度の単位に分けて会議を行った。(10人×10回=100人)

⇒従前から市民会館を利用されていた方からは、市民も使いやすいホールが欲しい、逆にこれまで使ってこなかった層からは、ゆっくりできる広場やカフェ、マルシェなどの賑わいを創出するようなスペースも欲しいという意見があつた。

Q 3. 基本計画策定にあたって社会実験を実施しているようですが、どのような内容でどのような効果があつたか、具体的にどのような事業に反映したかなどお聞かせ願います。

⇒「育てる広場」実現への取組みとして、新施設の広場を想定した期間限定の芝生広場を市民自身で作成し、市民がやりたい企画を実施した。また、広場をつかうルールも市民自身で考えながら、試してを繰り返し、できることを増やしていくことで、市民自身が主役になり、暫定広場を自分ごとに考えるようになった。市民有志で結成したオープニング実行委員会などで、市民がやりたいことを反映させることができた。

Q 4. 民間事業者募集にあたって、エントリーが増えるような効果的な取組みや、募集要項における留意点等についてお聞かせ願います。

⇒募集にかかる手法をDB手法（設計施工と管理運営を分ける）にすることで、エントリーしやすくしている。

- Q 5. おにクルの整備手法や運営方法について、民間事業者の関わりについてお聞かせ願います。
- ⇒「おにクルみらい（代表団体：サントリーパブリシティサービス 構成団体：イオンディライト）」が施設管理維持に関わっている。また、ネーミングライツパートナー企業募集により、大ホール、多目的ホール、プラネタリウムの命名権料は維持管理費等に充当している。
- Q 6. 定期、不定期を問わず特徴的なイベント（催し）があればお聞かせ願います。非常に賑わいを見せている施設とのことですが、差し支えなければ、平日・休日の来訪者数などをお聞かせ願います。
- ⇒ほとんどの共用空間をイベントなどで利用（貸出）可能としているため、市内外問わず様々な方がイベントやマルシェを開催している。平日は平均2000人、休日は平均4000人の方が来館されている。
- ⇒子育て世代のみならず、高校生・高齢者など、様々な方々が利用できる場の提供になっている
- Q 7. おにクルが整備されたことで、周辺にどのような経済波及効果が生まれたのかお聞かせ願います。
- ⇒非公式の調査では、周辺エリアの人流が増えたこと、店舗によってはおにクルの影響で売上が向上した、などの変化がみられる。
- Q 8. 街なか活性化のために、周辺施設（阪急本通商店街・お祭りetc・・・）との連携した取組みなどがあればお聞かせ願います。
- ⇒市主催イベントの際には、商工会議所と連携し、街中の飲食店によるキッチンカーの出店などを行い、飲食店のPRを行っている。
- Q 9. 子育て機能や広場の導入にあたって工夫した点についてお聞かせ願います。
- 【まちなかの森 もっくる】**
- ⇒安全であり、かつチャレンジもできるような施設運営を見越した設計・施工となるよう、設計・施工及び運営を担う事業者（提案）を一体的に募集・選定した。
- ⇒市内公園再整備で出た伐採木を遊具に活用した。
- ⇒自然の森の中で遊んでいるようなデザインとし、年齢や発達に応じた体を使ってのチャレンジが可能な設計設備とした。
- ⇒LINEを用いた予約システム、キャッシュレス決済を導入し、利用者の利便性の向上を図っている。
- ⇒開館当初から、見込んでいたより多くの方にご利用いただいている。
- ⇒育児コンシェルジュと称して、保育士資格を有するスタッフを主に乳児エリアに配置し、気軽なおしゃべりや相談に応じ、2Fこども支援センターへのつなぎの役割を担っている。
- ⇒こども支援センターとのスムーズな連携が確立された。

**【こども支援センター】**

- ⇒母子保健と児童福祉(子育て支援・相談・虐待対応)の分野を一体的に運営、窓口を一本化し、妊娠期から子育て期まで、保健師や栄養士、保育士などの多様な専門職が切れ目なく支援を実施。
- ⇒横の連携が確保され、包括的な対応が可能となった。
- ⇒改正児童福祉法における「こども家庭センター」機能を整備。
- ⇒もっくるや図書館など、おにクルに来た「ついでに」「気軽に」相談できる環境を整備。
- ⇒相談環境を整備することで、窓口での随時相談件数が増加した。
- ⇒いわゆる一時預かり事業に加えて、おにクル利用時の一時的な託児（おにクルイベント保育）や当日預かりなど、多様な一時保育事業を展開。
- ⇒一時保育の利用者が増加した。

Q10. 子育て機能や広場の導入にあたって苦労した点についてお聞かせ願います。

**【まちなかの森 もっくる】**

- ⇒森林環境譲与税を運用するにあたっての調整事項
- ⇒木育遊具の設計及び採択
- ⇒全館工事ともっくる整備工事の同時進行
- ⇒想定以上の利用者数への対応（予約がとれない等のクレーム対応）

**【こども支援センター】**

- ⇒土日祝日窓口を実施することに対する職員の理解と調整
- ⇒別施設で勤務していた個々の専門職が一堂に会するにあたって、スムーズな連携に向けての意識の醸成
- ⇒一時保育の直営→委託化へ向けた職員等の整理
- ⇒おにクルに移転するにあたり、健診エリアの確保や健診方法
- ⇒タイトなスケジュールでの事務室移転（ぎりぎりまで旧の施設で業務を実施したので）
- ⇒移転してからの、想像以上の賑やかさへの対応（電話、窓口の声が聞こえない）
- ⇒おにクル移転後に異動してきた職員への「おにクルらしさ」の伝承

Q11. おにクル共創チームのひとつである「安全安心ユニット」において、防災及び防犯、リスクマネジメントを担当しているとのことですが、防災機能について特徴的なことがございましたらお聞かせ願います。また、災害発生時に想定できる施設の役割をお聞かせ願います。

**【防災機能】**

- ⇒電気は立地上2系統からの引き込みが可能だったため、系統別で本線と予備線を引き込んでいる。災害時利用する場所と役割に応じて、電気（コンセント）、照明、

換気、空調を利用できる様にしています。例) 7階の災害時本部代替機能のため上記すべての利用が可能。

⇒また、非常用発電時間は10時間。ただ、油庫給油口は1階に設け給油が容易に出来る様にしている。その他、高圧電源車接続盤を設置している。市役所との将来的な電源融通を可能にする管路を整備している。太陽光外灯、マンホールトイレなど細々したものもあるが上記のものがメインになる。庁内系ネットワークはG回路。  
(非常用電源)

#### 【災害時】

⇒広場を一時避難所にしているが、建物自体に避難所機能はない。災害時は物資集積拠点(多目的ホール)及びボランティアセンター(オープングャラリー)を設置する。本庁が被災した場合には、7Fが災害対策本部の代替となる。

#### ④安満遺跡公園【高槻市】

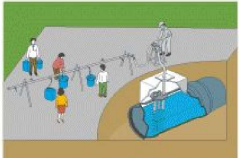
##### 【概要】

安満遺跡公園は、京都大学附属農場の跡地（約 22ha）に、平成 31 年 3 月に一時オープン、令和 3 年 3 月に広大な緑のセントラルパークとして全面オープンした。史跡安満遺跡を保存・活用した展示や体験ができる歴史拠点であるとともに、災害時には防災拠点・避難施設の役割も担う公園である。

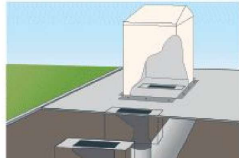
UR 都市機構が京都大学から用地を取得し、広域避難地の機能を有する防災公園を防災公園街区整備事業により整備するとともに、防災公園に隣接する市街地部分については敷地を高槻市に譲渡し、子育て施設及び道路整備がなされている。国史跡指定地については、文化庁の助成制度を活用している。

また、公民連携による子どもの遊び場やおしゃれなカフェやレストランなど魅力的な施設が数多く提供されている事例である。

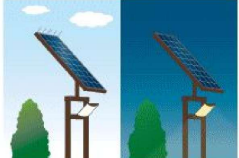
<b>訪問先</b>	安満遺跡公園 (高槻市)
------------	-----------------




**① 耐震性貯水槽**  
災害時に水道が断水した場合、飲料水や消火用水として利用します。




**② 非常用トイレ**



**③ ソーラー照明**  
災害時に停電になった場合、太陽光より蓄電されたソーラー照明で公園の入口を照らします。




**④ 臨時ヘリポート**

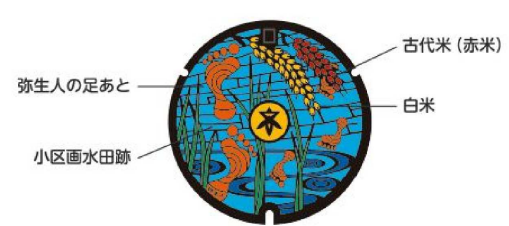


雨水貯留施設

**雨水貯留施設**



**デザインマンホール蓋**



弥生人の足あと  
古代米 (赤米)  
白米  
小区画水田跡

出典：安満遺跡公園 HP

## 【選定理由】

普天間飛行場跡地のまちづくりにおいて、沖縄振興・国際交流の舞台を支えるため、新たな高付加価値を生み出す源として跡地全体に魅力ある緑地空間を公民一体となって創出することが求められている。

安満遺跡公園では、UR 施行による防災公園街区整備事業が実施されている。高槻市の中心市街地に隣接（高槻市駅から徒歩 10 分）した場所において、国史跡の保存・活用方法や、公民連携による子どもの遊び場や飲食店等によるにぎわい創出など、普天間飛行場跡地の「みどりの中のまちづくり」の参考になると考え、選定した。

## 【事例の特性】

### ●防災機能

- 広域避難地として耐震性貯水槽、災害用トイレ、防災倉庫、ソーラー照明、臨時ヘリポートなどの防災機能や発災時に臨機応変に活用できるオープンスペースの確保。

### ●歴史・文化機能

- 住居や倉を囲んでいた環濠に白い石を敷き、人工芝の土手を整備。
- 用水路や井堰を備えた水田があったゾーンの中に、段差が低い棚田のような小区画水田を再現。
- かつて集団墓地となっていた場所の一角に、土を盛って墓の一部を再現。発掘された木棺も、発見された位置の真上に写真陶板で表示。
- 市民参加で竪穴住居を組み立て。

### ●公民連携

- 有料駐車場等やパークセンター内の貸室の運営
- 市や店舗事業者等が参加する魅力アップミーティングの運営
- 市民主体の活動である「安満人倶楽部（あまんどくらぶ）」の活動支援
- 市民が気軽に参加できる自主イベントの開催及び持ち込みイベント行為の許可
- 広大な芝生園地の効率的な植栽管理



写真：駅から公園までの路面標示案内



写真：発災時に臨機応変に活用できるオープンスペース



写真：クリアパネルによる案内板



写真：市民参加で組立てられた竪穴住居



写真：公民連携による子どもの遊び場



写真：公民連携による飲食店

### 3) 取組み成果と今後の課題

#### 【取組み成果】

- 大規模公園に導入する機能、民間活力活用の可能性
  - ・平時は交流やにぎわい拠点となり、有事は広域避難場所へ機能転換、民間活力を活用した質の高い整備や費用負担等に関する考え方について学ぶことができた。
- 新技術の有効性
  - ・脱炭素社会の実現に向けた環境負荷の低いエネルギー利用の考え方、自動運転やパーソナルモビリティ等の次世代モビリティの有効性について体験・学ぶことができた。
- 拠点整備のあり方
  - ・拠点整備にあたっての合意形成の手法や、単なる交流施設ではなく、地域住民の利便性向上や憩いなど、持続可能な交流施設の在り方について学ぶことができた。

#### 【今後の課題】

- 市民等への意向醸成のあり方
  - ・普天間飛行場返還後のまちづくりについて、地権者のみならず、市民も巻き込んだ検討が必要と考える。本視察で習得した知識をもとに、市民とともにまちづくりにおける課題の共有や解決策のアイデア出しなど、市民がまちづくりに関われる場を今後設けていく必要がある。

### (3) イベントの企画・開催

#### 1) 開催概要

普天間飛行場の跡地利用計画に関する内容、将来の跡地のまちづくりを考える取組みを紹介し、広く市民に対して跡地利用計画の興味を促すことを目的としてパネル展を開催した。

#### 【開催概要】

○期 間：令和7年12月5日（金）～12月12日（金）
○内 容：サンエー宜野湾コンベンションシティ3階オレンジ広場にて、「まちづくりパネル展」を開催し、下記取組みの紹介パネルを展示した。
①普天間飛行場の跡地利用計画紹介
②令和7年度子どもたちが考える未来の宜野湾市
③令和6年度子どもたちが考える跡地のまち

#### 【来場者数】

日時	来場者数 (人)
12月5日（金）	80
12月6日（土）	330
12月7日（日）	460
12月8日（月）	140
12月9日（火）	70
12月10日（水）	140
12月11日（木）	220
12月12日（金）	70
合計	1,510

#### 【シールアンケート回答者数】

質問項目	回答人数 (人)
普天間飛行場の跡地利用計画	61
小学生の将来のまち	62
興味を持てた	67
興味を持てなかった	5

#### 【シールアンケート】



【チラシ（市ホームページ掲載）】

## 普天間飛行場の跡地利用

普天間飛行場の跡地利用計画の状況や小学生を対象とした取組を展示いたしますので、ぜひお越しください+

● 小学生が考える未来の宜野湾市

小学生を対象として、普天間飛行場の跡地のまちづくりワークショップで作成した、未来の宜野湾市について紹介します！

● 普天間飛行場の跡地利用計画紹介パネル

現在の普天間飛行場の跡地利用計画の内容についてイラストを通して紹介します！

写真提供元：米原のり子（米原建設）

---

## まちづくりパネル展示会

**開催期間** 令和7年 12月5日(金) 12時から 12月12日(金) 14時まで

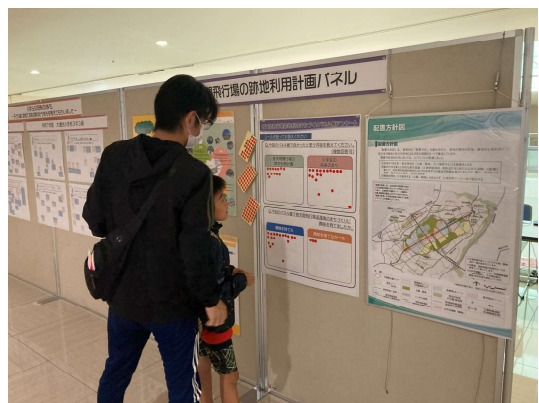
**展示場所** サンエー宜野湾コンベンションシティ 3階 オレンジ広場

**主催** 宜野湾市 基地政策部 まち未来課 (電話 098-893-4401 担当/渡嘉敷・伴本)

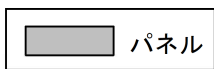
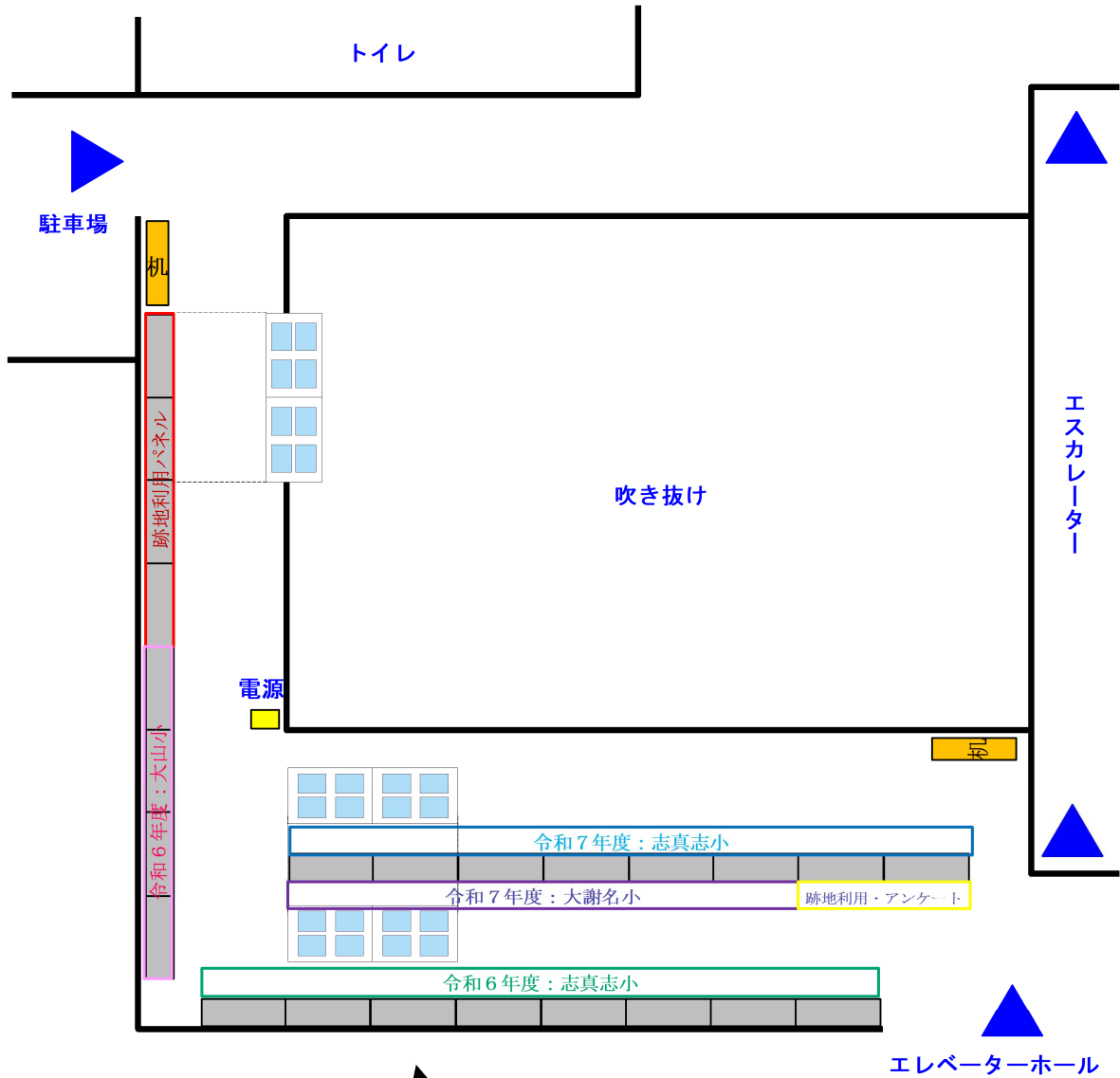
**事務局** 日本工営都市空間株式会社 (業務受託者) 電話 098-852-1960 担当/寺田・内田

何かございましたら、事務局へお気軽にご連絡ください。

【パネル展の様子】



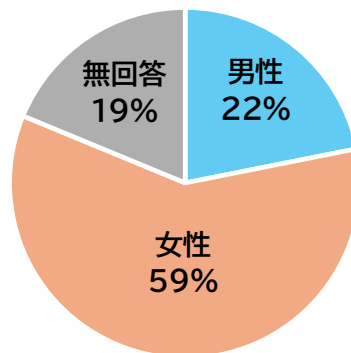
【パネル展レイアウト（サンエー宜野湾コンベンションシティ3階 オレンジ広場）】



2) アンケート結果

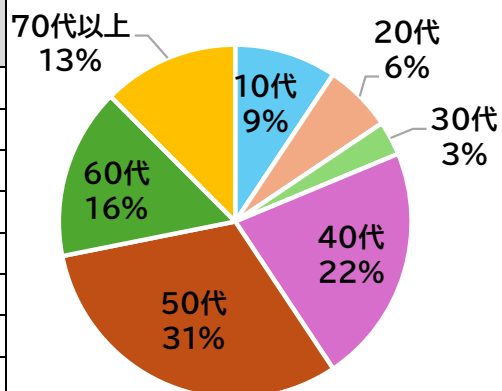
Q1. あなたの性別を教えてください。(1つに○)

選択肢	回答数 (件)	構成比
男性	7	22%
女性	19	59%
無回答	6	19%
合計	32	100%



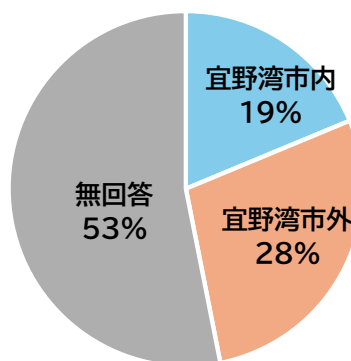
Q2. あなたの年齢を教えてください。(1つに○)

選択肢	回答数 (件)	構成比
10代	3	9%
20代	2	6%
30代	1	3%
40代	7	22%
50代	10	31%
60代	5	16%
70代以上	4	13%
無回答	0	0%
合計	32	100%



Q3. あなたの住まいを教えてください。(1つに○)

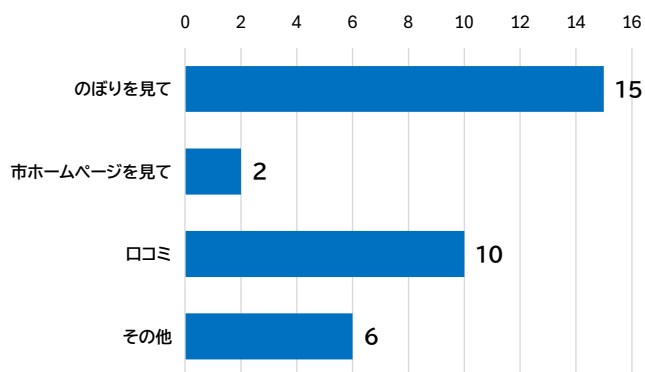
選択肢	回答数 (件)	構成比
宜野湾市内	6	19%
宜野湾市外	9	28%
無回答	17	53%
合計	32	100%



Q4. 今回のパネル展で良かったと思う内容を教えてください。

(複数回答可、シールアンケートの結果も含む)

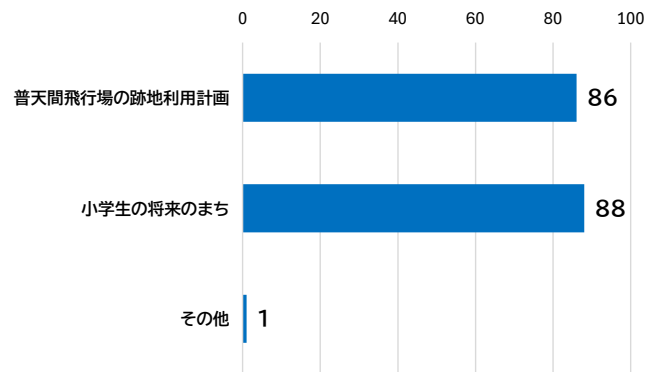
選択肢	回答数 (件)
のぼりを見て	15
市ホームページを見て	2
口コミ	10
その他	6
無回答	0
合計	33



Q5. 今回のパネル展で良かったと思う内容を教えてください。

(複数回答可、シールアンケートの結果も含む)

選択肢	回答数 (件)
普天間飛行場の跡地利用計画	86
小学生の将来のまち	88
その他	1
無回答	0
合計	175

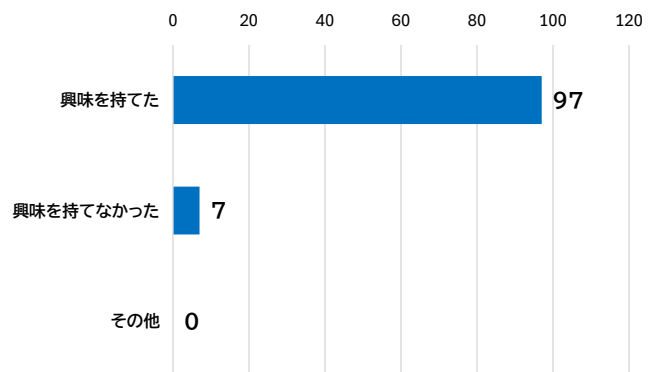


Q6. 今回のパネル展で普天間飛行場返還後のまちづくりに興味を持ってましたか。

その理由もお聞かせください。

(複数回答可、シールアンケートの結果も含む)

選択肢	回答数 (件)
興味を持ってた	97
興味を持ってなかった	7
その他	0
無回答	0
合計	104



**【理由】**

- ・私達が子供の頃は、すごく遠い未来のことの様でしたが、子どもたちのユニークな発想に明るい未来を感じました。
- ・返還合意から30年を迎える、実際に返還される時には市民の考えも変化すると思う
- ・今後のことで将来の子供達の意見を参考にできるから。
- ・小学生の考えるまちが楽しそう。
- ・子ども達がまちづくりに興味を持っていることが嬉しかったから。
- ・跡地がどう活用されるか楽しみになった。
- ・返還に向けた具体的な取組を知ることができた。まちづくり事業は大事業と感じた。
- ・色々な考えですごかった。
- ・子ども達の考える跡地利用が実現できると大変うれしいです。

#### Q7. 跡地利用に関する意見や、その他意見

- ・大人も明るい未来になるよう話し合い、考えていきたいなと思いました。
- ・年度も意見収集してまちづくり計画をよりよくしてほしい。
- ・大山小から真っすぐの道路があったほうが地域の方も過ごしやすいと思う。
- ・地域が活性化するように平和な都市にしてほしいと思います。ありがとうございました。
- ・バス以外の公共交通手段があると移動しやすくなり町全体の活気が出ると思います。その方が便利でぜひ使いたいです。高齢者と子どもがいるので、どうしても行動範囲が限られてしまい。みんなが移動しやすくなるとうれしいです。
- ・子どもの頃から興味を持つ機会を設けることで、未来に繋げていただきたいです。
- ・すべての県民が利用可能な場所にしてほしい。
- ・便利で楽しいまちづくりをしてほしいです。
- ・子ども達の発想のすごさに感心しました。早く基地が返還されて素晴らしい町になってほしいと思います。
- ・市民の為になり、楽しめるまちづくりをしてほしいと思います。
- ・開発の時期がいつからか知りたい。
- ・市民が了承するのであれば、那覇第二空港として活用し、基地の人の雇用やインバウンドの効果も得られるのかと思いました。
- ・様々な意見はあると思いますが、それぞれのゾーニングの配置、合意形成に向けての課題等、話し合っ解決できたらいいですね。将来を担う児童、生徒の意見は夢があり、大人の私達も参考に取り入れるところは取り入れて是非反映させてほしいです。
- ・基地がなくなったら、新しい世界遺産や電車、新幹線などを作りたいです。それが現実になってほしいです。
- ・大変さが分かりました。
- ・交通の便利なみんなが来たくなる様なまちづくりを期待しています。
- ・返還後に埋設物とかがないようにチェックしてほしい、西から東へ延びる道路ができると便利。年寄りが住みやすい街づくり、車が無くても買い物が便利、モノレールなどで移動できる。
- ・震災に備えた地下道（地下鉄）その上に公園。若い人たちが集える場所。100人くらいの人が入れる大規模施設、コンサート施設、レストラン、大規模な駐車場、海外からの人も呼び込めるようなもの。図書館。
- ・自然豊かで美しく人も動植物も豊かに暮らしやすい街、田いも畑や農業地は必ず残してほしいです。
- ・現況を利用する方が良い、例えばサーキット場。

### 3) 取組み成果と今後の課題

#### 【取組み成果】

- 来場者の普天間飛行場跡地利用計画に対する興味・関心の向上
  - ・普天間飛行場の跡地利用計画について、市内外の幅広い来場者に対し、興味・関心を促すことができた。また、親子での来場者も多く、子どもたちが考えた未来の宜野湾市や跡地のまちの展示を通して、親子で宜野湾市や普天間飛行場跡地の将来について考える機会を創出することができた。

#### 【今後の課題】

- 更なる情報の充実
  - ・展示スペースの規模や動線など、多くの方が落ち着いてパネルを観覧することができるようにする必要があり、今後さらに情報発信の機会を作り、多くの方が観覧できる会場を見つける等、情報発信の充実を図る必要がある。
- アンケート回収率の向上
  - ・多数の来場者がパネルを観覧している一方で、紙アンケートの回答数が少ない結果であった。今後はアンケート回収率向上に向けて、回答を促す積極的な呼びかけや、落ち着いて回答できる環境（回答ブース）の設置などの工夫が必要である。

#### (4) 情報誌「まち未来だより」の作成・発行

##### 1) 目的

市民に対し、普天間飛行場跡地利用計画策定に向けた取組み内容等について情報を発信し、普天間飛行場跡地利用への関心を高めることを目的として作成する。

##### 2) 情報発信の内容

回数	発行時期	主な掲載内容
17	(令和8年4月発行) 市報(4ページ)	○報告事項 1. パネル展の開催報告 2. 市内小学校に向けた出前講座の概要報告 3. 先進地視察会の概要報告 4. まちづくり講座の概要報告

##### 3) 取組み成果と今後の課題

###### 【取組み成果】

- 跡地利用のまちづくり意向醸成に向けた取組みに関する情報発信
  - ・ 市民のまちづくり意向醸成を目的に実施した「まちづくり講座」「パネル展」等について、写真やグラフを多用することで視覚的に分かりやすい情報発信に繋がり、普天間飛行場跡地利用への関心を高める内容となった。

###### 【今後の課題】

- 市民が跡地利用のまちづくりに興味・関心を持つための工夫
  - ・ より多くの市民への興味・関心を促すため、紙面の見やすさ、内容については更なる工夫が必要である。

みんなで考えよう！ 宜野湾市の夢のあるまちづくり

# まち未来だより

「まち未来だより」では、普天間飛行場の跡地利用に関する取組みについてお伝えします。

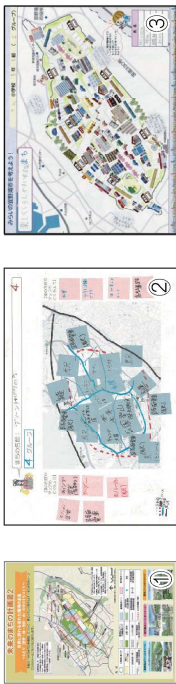
**観覧者数  
約1,500名**

## 1. パネル展を開催しました！

子どもから大人まで幅広い世代の市民に対し、普天間飛行場跡地利用への関心を高めることを目的として、パネル展を開催しました。

### 開催概要

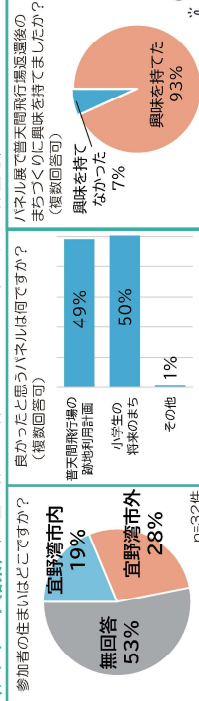
日時：12月5日（金）～12月12日（金）  
場所：サンエー宜野湾コンベンションシティ 3階 オレンジ広場  
展示内容：①普天間飛行場の跡地利用計画紹介 ②令和7年度 子どもたちが考える未来の宜野湾市  
③令和6年度 子どもたちが考える跡地のまち



〈パネル展の様子〉



### 〈アンケート結果〉（回答者数104件 ※シリアルアンケート72件含む）



結果：パネル展開催によって93%の方がまちづくりに興味を持っていただきました。今後より多くの市民へ興味を持っていただける取組みを行ってまいります。

## 2. 出前講座を開催しました！

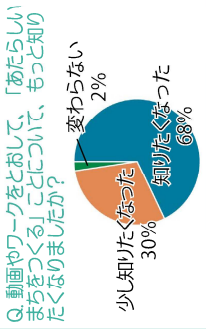
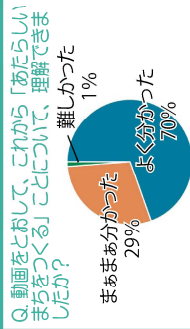
小学生を対象として、普天間飛行場が返還されたあとの新しいまち「みらいの宜野湾市」について考えてもらうことを目的として出前講座を開催しました。

### 開催概要

作業手順：①まちづくりワークショップの主旨説明  
②プロモーション動画鑑賞・3択ミニクイズ ③みらいの宜野湾市の作成  
令和7年9月12日（金）9：25～11：05 開催校：大嶽名小学校（3年生）



令和7年11月14日（金）9：30～11：10 開催校：志真志小学校（6年生）



### ワークをとおして、あなたが宜野湾市で「一番かなえたいこと」(主な意見)

- ・自然豊かで交流ができるまち
- ・市民が楽しめる場所
- ・安心、安全でみんなの将来の夢がかなう地域
- ・今より緑がある地域
- ・安心、安全な緑がたくさんあるまち
- ・とてもいい街にして宜野湾市のみんなが住めるようにしたい
- ・子どもからお年寄りまで楽しめるまち
- ・だれでも差別されず、みんなでも住める宜野湾市
- ・移動しやすい、楽しい、あそびやすいの3つがかなったおもしろく便利なまち
- ・みんなが健康で長生きできるようなまち
- ・安全で平和なまち



結果：児童からは「跡地のまちづくりに理解できた」と多くの声が高まりました。今後多くの小中学校で出前講座を開催し、跡地のまちづくりを考えたまちづくりを行ってまいります。

### 3. 先進地視察会 に行ってきました!

普天間飛行場跡地のまちづくりの参考とするため、情報の収集・蓄積を図ることを目的として県外先進事例の視察を行いました。視察のテーマは「みどりのまちづくり」と「環境の豊かさが持続するまちづくり」と「市民の新しい生活拠点となるまちづくり」です。

#### 視察先

<p>9/1(月) うめぎプロジェクト (大阪市)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最大1万人が楽しめる国際的な集客イベントにも対応した大広場を設け、交流、にぎわいの拠点を形成。</li> <li>広域遊樂場所の中心として、災害活動拠点となる公園を整備。</li> <li>土地区画整理事業を行う道路や公園等の整備内容・費用には一定の範囲があるが、その範囲を超える大規模等の整備費用については、開発事業者が負担して整備。</li> </ul>	<p>9/2(水) 大阪・関西万博 (大阪市)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>AR (拡張現実) やVR (仮想現実) 等のバーチャル技術を活用して、会場に来ることができない障がい者、高齢者、遠方の方等、世界中の多くの人が参加可能。</li> <li>移動・モビリティでは、外部アプリとの連携を通して、万博会場外の公共交通や会場内のモビリティ等の関連サービスを組み合わせた予約・決済等や、会場内の情報、周辺の観光情報等を、AIを活用して最適化し提供するアプリを導入。</li> </ul>
<p>9/3(木) おにクル (茨城市)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>おにクルは、市民会館跡地の第一期整備 (約0.7ha) により、2023年11月にオープンした文化・子育て複合施設。</li> <li>7階建てのフロアをつなぐ吹き抜け階段となり、ホール、図書館、子育て支援センター、プラネタリウム等の機能が集まる。</li> <li>安済運動公園は、京都大学附属農場の跡地。防災機能を備えた、緑豊かな公園。</li> </ul>	<p>9/3(木) 安済運動公園 (高槻市)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>おにクルは、市民会館跡地の第一期整備 (約0.7ha) により、2023年11月にオープンした文化・子育て複合施設。</li> <li>7階建てのフロアをつなぐ吹き抜け階段となり、ホール、図書館、子育て支援センター、プラネタリウム等の機能が集まる。</li> <li>安済運動公園は、京都大学附属農場の跡地。防災機能を備えた、緑豊かな公園。</li> </ul>

結果：普天間飛行場の跡地のまちづくりを参考とるうえで、公民連携の取組みや市民活動の拠点となる空間のあり方など、参考となる点がありました。今後も先進地のまちの視察を通じて、まちづくりの情報の収集・蓄積に努めます。



### 4. まちづくり講座 を開催しました!

市民、学生に対して、普天間飛行場跡地利用に関する学習の機会を提供するとともに、跡地利用に対する関心を高め、合意形成活動への積極的参加を促すことを目的として、まちづくり人材育成のための「まちづくり講座」を開催しました。

#### 沖縄国際大学との連携

対象者：沖縄国際大学政経学部2年生計48名 (3クラス9グループ)  
 テーマ：周辺市街地との連携による価値の高いまちづくりのすすめ  
 大学と連携する狙い：①まちづくりを学ぶ  
 ②地質住民等との交流 (外部へのインタビュ等)の経験取得  
 ③グループでのプロジェクト企画作成のプロセスを学ぶ



今回の講座では、現段階における普天間飛行場を見据えたまちづくりのスタートとして、「周辺市街地における身近な地域まちづくり」を対象としました。  
 ◇普天間飛行場跡地と興味のあるテーマをグループ毎に選択し、まちの問題・課題を見つめ、関係者へのインタビューを踏まえ、課題解決案を提案・発表しました。  
 ◇同講座を通して普天間飛行場周辺での跡地利用を見据えた新しいまちづくりへの関心や理解を高めました。

#### 各グループで考えた内容

<p>1グループ</p> <p>＜テーマ＞バスで広がる安心の未来</p> <p>＜企画内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティバス</li> <li>運行ボランティア</li> </ul>	<p>2グループ</p> <p>＜テーマ＞子どもたちが安心して、心豊かに成長できるまちづくり</p> <p>＜企画内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SNSを使った周知</li> <li>市や企業と地域の学生が協力して製品の開発、イベントの実施</li> </ul>	<p>3グループ</p> <p>＜テーマ＞イベントと若者をつなげたまちづくり</p> <p>＜企画内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>防犯パトロール</li> <li>防犯クイズ大会</li> </ul>
<p>4グループ</p> <p>＜テーマ＞自治会加入率向上を促した地域の活性化</p> <p>＜企画内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自治会活動をまとめた漫画</li> <li>自治会参加促進し制度の導入</li> <li>自治会アプリ化</li> </ul>	<p>5グループ</p> <p>＜テーマ＞自治会加入率向上を促した地域の活性化</p> <p>＜企画内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自治会活動をまとめた漫画</li> <li>自治会参加促進し制度の導入</li> <li>自治会アプリ化</li> </ul>	<p>6グループ</p> <p>＜テーマ＞防災のまちづくり</p> <p>＜企画内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>映画鑑賞</li> <li>防災すごろく大会</li> <li>防災クイズ大会</li> </ul>
<p>7グループ</p> <p>＜テーマ＞外国人交流オンラインプラットフォーム</p> <p>＜企画内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オンラインプラットフォーム</li> </ul>	<p>8グループ</p> <p>＜テーマ＞普天間飛行場跡地を賑わい活かせるまちづくり</p> <p>＜企画内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>普天間飛行場跡地を賑わい活かせるまちづくり</li> </ul>	<p>9グループ</p> <p>＜テーマ＞バスアプリでつながる、安心・便利な宜野湾のまちづくり</p> <p>＜企画内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高校生にチラシなどを配りバスアプリを周知させる</li> </ul>

結果：参加者から講義の中で普天間飛行場の跡地のまちづくりを知り、宜野湾市のまちづくりに関しては、自分たちの意見を述べてみたいという声やヒアリング調査など、貴重な体験ができたことへの感想がありました。今後、まちづくり講座を通じて若い世代への普天間飛行場跡地利用に関する学習の機会を提供していきます。



基地政策部 まち未来課  
 お問い合わせ 電話 098-893-4401 (直通) <URL> https://www.pref.okinawa.jp/f/itenma-miai/  
 FAX 098-892-7022

普天間飛行場跡地利用計画の  
 詳細はこちら→